

建築人

3

2016

大阪ホンマもん



今年一月末、大阪府寝屋川市に立地する聖母女学院を再訪する機会があった。大阪と京都を結ぶ京阪電車の香里園駅で下車し、緩やかな桜並木の坂道を上がって十分ほどで、突き当りのキャンパスに到着する。周囲一帯は、昭和初期に開発された郊外住宅地であり、駅前には近年不粋な高層マンションが建ってしまったが、それでも戸建て住宅の多い閑静な環境は守られている。

私事ながら、初めて訪れたのは、二〇〇七年に神奈川県立近代美術館で開催された「アントニン・レーモンド展」の事前調査の際なので、約十年ぶりとなる。その時は、現在はワシントン議会図書館で建築専門学芸員として活躍中の中原まりさんや、ワシントン州立大学教授のケン・タダシ・オオシマさんと一緒だった。

良く知られているように、設計者のアントニン・レーモンド（一八八八―一九七六年）は、一九一九年の大晦日に帝国ホテルの設計助手としてフランク・ロイド・ライトに伴って初来日し、一九二一年に彼の下から独立して、精力的な設計活動を戦前の日本で展開していく。偶然にも同じ一九二一年に、この聖母女学院を創立することになる修道女がフランスから来日している。

レーモンドへの設計依頼がどんな形で行われたのかは分からない。おそらく、独立後の出発点である東京女子大学（一九二四―三八年）が機縁になったと思われる。その後も、宝塚の小林聖心女子学院（一九二六年）、東京の聖心女子学院（一九二八年）、岡山の清心高等女学校（一九二九年）の設計を手がけ、この聖母女学院が戦前最後のミッション・スクールの仕事になる。

興味深いのは、一九三〇年四月にル・コルビュジエのアトリエから帰国し、八月からレーモンド事務所に入所した前川國男が、次のような回想を残していることである。

「レーモンドでやった最初の仕事は、香里の高等女学校だったな。（中略）プランをやったんだけど、それが気に入られなくてね、むこうに。それで多少手直しして、いま建っているのがそうだ。」（前川國男・宮内嘉久『二建築家の信條』晶文社一九八一年）

この前川の回想どおり、現在のレーモンド事務所には入所した前川國男が、次のような回想を残していることである。

記憶の建築

松隈 洋

聖母女学院（現・大阪聖母女学院）1932年
レーモンドの学校建築遺産



正面玄関入口を見る



建物の中心を貫いて伸びる大廊下

成されていることが読み取れる。手前の東側には高等部の教室群三棟が張り出し、西側には体育館が取り付く。さらに奥の東側には小学部が中庭を囲む形で配置されている。現在の建物の骨格がほぼこの時点で決定されていたことが見えてくる。

残念ながら、この図面を描いた後、前川がどう設計に携わったのかは不明である。けれども、建設工事の起工が、前川の入所からわずか六ヵ月後の一九三二年二月であることから推察すると、この平面図を元に、

此の少しの飾りは少女の質素な髪飾りのリボン位に思えて少しも気にならず、却て此の学校の気持を表示している様に惟えるのも愉快だ。」（杉山雅則「聖母女学院の建築」『国際建築』一九三八年七月号）

所員が総力を挙げて実施設計を進めたのだと思われる。竣工時に、設計チーフの杉山雅則が記した次のような文章がある。

「当初、（中略）校舎の設計は所謂コンクリート様式のスケッチを提案したが承認に至らず、少し窓などの構成を変え装飾をつける事にした。此の場合もMr.Raymondは懸命に第一案を推したが同意を得るに至らなかったと聞く。自分達も意匠及仕事への潔癖から大変残念に思ったが、今観れば

杉山の証言する「コンクリート様式のスケッチ」こそ、前川の描いたものだったに違いない。たしかに、完成した建物のプランは、ほぼ原案通りだが、竣工記事に、「現代風加味するスパニッシュミッドモダンスタイル」（『建築雑誌』一九三二年八月号）と表記された通り、外観は装飾のある折衷様式でまとめられた。今回改めて校舎群を歩いてみると、手前の校舎の外壁や窓廻りにはスパニッシュ風の装飾が施されていたが、奥に進むに従って、装飾のない即物的なデザインに変わっていく様子が見て取れた。そして、左奥の体育室と思われる部屋は、コンクリート打放しの柱と梁が空間を支えており、ガラスの大開口部も含め、コンクリート様式が忠実な形で実現されていた。

それにしても、中央を貫いて背骨のように奥へと伸びる幅四mを超える大廊下と床面の幾何学模様、途中にある大階段、左右に広がる教室群など、空間の骨格の大らかさには圧倒される。ここに学ぶ生徒たちにも強い印象を与えてきたに違いない。

偶然にも、近くには、レーモンドと同年の藤井厚二（一八八八―一九三八年）の手がけた木造の八木邸（一九三〇年）も現存し、一般公開が始まっている。貴重な戦前の近代建築として、二つの建物が地元の地域遺産として生き続けてほしいと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

匠の軽快な解説と共に「水の都ー大阪」を満喫します。

日時 4月7日(木) 12:00 集合
12:30 出帆 14:30 帰港

集合 ナンバ湊町リバープレイス前乗船場

募集 最大48名(会費入金順・定員に達し次第締切)

参加費 7,100円(お弁当・飲物付)

平成27年度 文化庁文化芸術振興費補助
①船場のおひなまつり
2/26～3/3

「船場のひなまつり」は、船場ゆかりの旧家に伝わる散逸しつつある雛飾りを発掘、公開することで、船場の歴史や文化の厚みに思いを馳せていただくための取り組みです。

▼船場のお雛展

北船場ゆかりの五家に代々伝わる雛人形を4つの会場で特別展示公開します。

日時 2月26日(金)～3月3日(木)

場所 伏見ビル(11:30～18:00)
生駒ビルディング(9:00～18:00)
芝川ビル(12:00～18:00)
少彦名神社(9:30～17:00)

参加費 無料

最寄駅 堺筋線「北浜駅」、御堂筋線「淀屋橋駅」等

平成27年度 文化庁文化芸術振興費補助
②「落語」を登録有形文化財寺西家で楽しむ
3/26

登録有形文化財 寺西家で毎月、落語会が開催されています。大正末に建てられた町家で、三味線や太鼓の囃子がいはい本格的な上落語を聞近で楽しめます。又、最後に近隣店から提供されたお土産の抽選会もあります。

日時 3月26日(土)
14:00開演(13:30開場)

<3月・弥生席>

1. 十 徳…………桂 小鯛(塩鯛門下)
2. そばのご隠居…桂 文太(五代目文枝門下)
3. 骨釣リ…………桂 千朝(三代目米朝門下)
4. お楽しみ ……桂 文太(五代目文枝門下)

入場料 当日1,800円 前売・会員1,500円

場所 登録有形文化財 寺西家
Tel.06-6624-7618
大阪市阿倍野区阪南町1-50-25

最寄駅 地下鉄御堂筋線「昭和町駅」下車徒歩1分(4番出口すぐ右折れ一つ目辻右折れスグ)

● 本会の催し参加問合せ・申込先 ●

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

第25回「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール表彰式・プレゼンテーション
3/29

「あすなろ夢建築」は、大阪府内の高校生や専修学校生等を対象に、小規模な公共建築を題材として作品を募集し、グランプリ作品を実際に建設する設計コンクールです。

審査の結果、応募作品269点の中から10点の入賞作品が選ばれ、表彰式・受賞者によるプレゼンテーション及び作品展示を行います。

日時 3月29日(火)
表彰式 13:00～13:30
プレゼンテーション 14:00～17:00

場所 ハグミュージアム/大阪ガスショールーム2階イベントスペース

最寄駅 地下鉄ドーム前千代崎駅

参加費 無料 但し先着60名まで。
(参加証を発行いたします。)

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=23121

問合せ 大阪府住宅まちづくり部公共建築室
計画課計画グループ
Tel.06-6210-9787

Others

その他のお知らせ

デジタル・コンストラクション
ーBIM施工革新の展望ー
3/11

近い将来やってくるであろう、BIMデータをフルに活用して、デジタルのまま建築施工を実現するという時代。その変革を「デジタル・コンストラクション」と名付け、本シンポジウムを建築生産・施工におけるデジタルモデルの利活用に関する新たな試みについて議論する場と期待します。

主催 (一社)日本建築学会近畿支部

日時 3月11日(金) 13:30～17:00

会場 建設交流館8階グリーンホール
大阪市西区立売堀2-1-2

定員 250名(定員なり次第締切)

参加費 本会会員2,000円

問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://kinki.aij.or.jp/

明治建築が描かれた年賀状、建築家、建築史家のミニ年賀状展(2)
3/12～19

美しい明治・大正・昭和の建築、研究会が指導を受けた建築家、建築史家からの年賀状や諏訪ノ森駅舎の図面他を展示します。

日程 3月12日(土)～19日(土)

時間 10:00～20:00

会場 堺市立東図書館

問合せ 明治建築研究会
Tel.090-4289-1492

展覧会 村野藤吾の建築ー模型が語る豊穡な世界ー
3/14～6/11

建築の設計を志す学生たちが、設計原図を読み取って制作した精巧な模型80点と関連する設計原図や村野藤吾のスケッチ、竣工写真や現況写真と共に展示します。

主催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

企画協力 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団/目黒区美術館/村野藤吾の設計研究会

協力 MURANO design

期間 3月14日(月)～6月11日(土)

時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 日曜日・祝日 観覧料 一般200円

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
京都市左京区松ヶ崎橋上町

最寄駅 京都市営地下鉄松ヶ崎駅

■記念シンポジウム

模型が語る村野藤吾建築の魅力

講師 長谷川堯(建築評論家/武蔵野美術大学名誉教授/東京造形大学客員教授)

西村征一郎(京都工芸繊維大学名誉教授)
竹内次男(京都工芸繊維大学名誉教授)
石田潤一郎(京都工芸繊維大学教授)

司会 松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)

日時 4月23日(土) 14:00～17:00

会場 京都工芸繊維大学1号館0111号講義室

入場 無料(当日先着順・申込み不要)

定員 130名

講演会「地震や津波に強いまちづくりを目指して」
3/17

「防災まちづくり講演会」の第2回目の今回は「地震や津波に強いまちづくりを目指して」がテーマです。

主催 (一社)大阪府建築士事務所協会

日時 3月17日(木) 16:00～18:00
受付15:30～

会場 国民會館12階武藤記念ホール
大阪市中央区大手前2-1-2

講師 諏訪 仁、武田篤史
(株式会社組技術研究所構造技術研究部)

定員 100名

受講料 本会会員1,000円

締切 3月14日(月)

問合せ (一社)大阪府建築士事務所協会
Tel.06-6946-7065

幻燈で見る各地の明治建築について(8)
3/19

危機を乗り越え保存される建築、保存を求められながら淋しく解体される建築などの現況をスライドで見ながら語り合います。

日時 3月19日(土) 11:00～

会場 堺市立東図書館

講師 明治建築研究会代表 柴田正己

問合せ 明治建築研究会
Tel.090-4289-1492

講習会「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準」(大阪開催)
4/8

「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準(案)・同解説」の刊行を機会に講習会を実施します。

主催 日本建築学会構造委員会
鉄筋コンクリート構造運営委員会

日時 4月8日(金) 10:00～17:00

会場 大阪科学技術センター8階大ホール
大阪市西区靱本町1-8-4

定員 200名

参加費 本会会員14,000円(テキスト代含)

問合せ・申込 (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

京都国立近代美術館
文化勳章受章記念「志村ふくみー母衣への回帰ー」
開催中～3/21

志村ふくみは「民衆の知恵の結晶である紬の創作を通して、自然との共生という人間にとって根源的な価値観を思案し続ける芸術家」として、平成26年に第30回京都市賞を受賞し、平成27年には文化勳章を受章しました。今回の展覧会では、代表作を中心に、初期の作品から最新作までを一堂に展示します。

会期 開催中～3月21日(月・祝)

時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜(但し、3/21は開館)

観覧料 一般900円

会場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町

問合せ 京都国立近代美術館
Tel.075-761-4111



作品名 澤 1967
東京国立近代美術館所蔵

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

本会における既存建築物耐震診断等評価業務

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画案の審査、評価 等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合、評価手数料の10%割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

建築家 横文彦展

未来へのメッセージ

横文彦+横総合計画事務所の50年
4/22～5/29

横文彦氏の半世紀にわたる作品をはじめ最近の作品を、模型、図面、スケッチ、映像などを通して紹介する展覧会を開催します。

また、これに合わせて講演会も開催します。

■建築家 横文彦展

日時 4月22日(金)～5月29日(日)
11:00～21:00(最終日17:00まで)
5月16日(月)休館

会場 NU茶屋町地下1階
大阪市北区茶屋町10-12

入場料 無料

■横文彦 講演会 CPD2単位(予定)

テーマ ヒューマンな環境の構築を目指して

日時 5月13日(金) 18:30～20:00
(開場17:30)

会場 大阪市中央公会堂大集会室
大阪市北区中之島1-1-27

入場料 無料(予約制)

申込 本会ホームページからお申込下さい。

展覧会場でも受付ます。

※詳細は、同封の案内チラシをご覧ください。

大阪地域貢献活動センター 平成28年度助成対象活動募集

建築士と地域住民等で構成する団体が進める地域貢献活動が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、原則として営利を目的としない活動に活動費の助成などを行います。

応募締切 4月28日(木)まで

助成額 1件の助成額は30万円を限度

問合先 本会・社会貢献委員会

※詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

平成28年二級、木造建築士試験案内

◇受験申込書の配布

期間 3月7日(月)～4月11日(月)
(土、日、祝日は除く。)

時間 9:30～17:00

場所 大阪府建築士会事務局

◇受験申込受付

期間 4月7日(木)～4月11日(月)
(土、日も受付ます。)

時間 10:00～17:00

場所 大阪府建築士会事務局

◇学科試験日 二級 7月3日(日)
木造 7月24日(日)

◇設計製図試験日 二級 9月11日(日)
木造 10月9日(日)

※インターネット又は郵送による受験申込は、建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

<http://www.jaeic.or.jp/>

建築士法にもとづく建築技術講習会 建築における板ガラス ～板ガラスの選定・施工する上での 考慮ポイント～ 3/3 CPD3単位

建築物における板ガラスの施工のポイントを中心に、製造から加工、施工の知識、ファサード等の様々な意匠上の要求に対応するための工法等を解説いたします。

日時 3月3日(木) 13:30～17:00

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

内容 ・建築とガラス
・建築のガラスフィルム
・板ガラスを採用する際の注意点
・ガラスファサードの可能性

定員 150名(定員に達し次第締切)

受講料 本会会員3,500円
後援団体会員4,500円 一般5,500円

大阪府知事指定講習 ガイドラインの活用で検査済証がない建築物の有効活用を !! 3/10 CPD2単位

平成26年7月、国土交通省から「検査済証のない建築物に係る指定確認検査機関を活用した

建築基準法適合状況調査のためのガイドライン」が出されました。これは、検査済証がない建築物の有効活用を円滑にするためのものですが、実用には、様々な課題があります。検査済証の交付率が長く低迷していたことによる現状と課題、また、ガイドラインの内容や活用方法等について、ガイドライン策定に携わった方を講師としてお招きし、分かりやすく解説していただきます。尚、本講習会は法定講習とは異なり受講は任意です。

日時 3月10日(木) 13:25～15:30

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

内容 検査済証のない建築物に関する行政の動き、現状と法的課題、ガイドラインの内容と活用方法

定員 150名(定員に達し次第締切)

受講料 本会会員2,500円
後援団体会員3,500円 一般4,500円

監理技術者講習 (管理技術者以外の方も受講可能) 3/18、4/12、5/11 CPD各6単位

監理技術者は、工事請負金額3,000万円(建築一式工事は4,500万円)以上の請負工事への配置と、5年ごとに監理技術者講習を受講することが建設業法で義務付けられています。

本講習では建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひ受講下さい。

日程 3/18(金)、4/12(火)、5/11(水)

時間 9:00～17:00

会場 大阪府建築健康会館

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

定員 各回90名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円
郵送・窓口申込み10,000円

主催 日本建築士会連合会

運営 大阪府建築士会

建築士法にもとづく建築技術講習会 これだけでわかる 建築基準法! 4/28 CPD4単位(予定)

一級・二級・木造建築士の学科試験に向けて準備を始めた方、設計実務に役立つ法令知識を身につけたい方を対象に、建築基準法・同施行令から関連法規までを学ぶ講習会です。講師が永年の経験で培ってきたノウハウを活かして、できるだけわかりやすい表現で、建築基準法の条項順に、図表を多く取り入れたテキストを使用し、法文の内容を的確に理解できることに重点を置いて解説します。

日時 4月28日(木) 13:30～18:00

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

内容 概要・総則、一般構造・建築設備規定、防火・避難規定、構造強度規定、都市計画関係規定、建築士法、関連法規

定員 150名(定員に達し次第締切)

受講料 本会会員4,000円
後援団体会員4,500円 一般5,000円

建築士の会 やお・かしわら+建築士の会 東大阪 一八尾市立桂中学校校舎改築工 事の見学会－ 3/12 CPD2単位(予定)

桂中学校は、昭和47年6月に竣工した、当時としては斬新なデザインのコンクリート打放しの大規模な中学校でしたが、耐震補強が困難であることから、校舎のみを全面改築したものです。シャープなデザインとすっきりした平面計画で、爽やかな色使いの中学校が完成しました。

日時 3月12日(土) 受付10:00～
見学10:30～12:00(予定)

集合場所 桂中学校北側玄関前
(八尾市桂町4丁目47番地)

アクセス 近鉄「河内山本駅」下車。花園駅
前行のバスで、福万寺口停留所下車。
西に約650m

参加費 1,000円(資料代等)

定員 30名(申込先着順)

※参加証は実施1週間前に出状予定。

建築士の会「南河内」 東高野街道歴史散策 in 古市と 富田林寺内町 ～古市と富田林寺内町の歴史街道を散策しまし しょう～ 3/13 CPD6単位(予定)

東高野街道は、京から高野山への参詣路として、河内国を南北(八幡、枚方、交野、四條畷、東大阪、八尾、柏原、藤井寺、羽曳野、富田林、河内長野)に貫く歴史街道です。今回は、沿道の古市と富田林寺内町を散策します。古市では「ベンガラ染」体験、寺内町では、非公開の「田守邸」の一部と重要文化財「興正寺別院」を見学します。

日時 3月13日(日) 9:30～受付開始
10:00出発～16:00現地解散予定

集合場所 近鉄南大阪線「古市駅」東出口
1階広場付近

参加費 3,000円(資料代、保険代、ベンガラ染体験料金含む。)

※昼食は各自負担

定員 20名(申込先着順)

行程 10:00古市駅出発⇒白鳥神社⇒西琳寺⇒養の辻の道標⇒ベンガラ染体験⇒昼食⇒じないまち交流館⇒田守邸⇒興正寺別院⇒16:00頃現地解散

大阪市4地域会 川から見る大阪の建築クルーズ 4/7 CPD2単位(予定)

社会貢献委員会地域分科会大阪市4地域会第一回合同企画です。

ナンバ湊町リバープレイス前の乗船場を出帆し、道頓堀水門のミニパナマ運河を体験、木津川、堂島川を経て、中之島地区を通り、天神橋から大川へ。帰りは、中之島を北に見て、土佐堀川から東横堀側を南下して、水辺の賑わい道頓堀川を進み、湊町リバープレイス乗船場に戻ります。ガイド役に千葉工業大学工学部建築学科を卒業された落語家の桂歌之助師匠が同行しますので、川から大阪の建築を見ながら、師

会長動静

- 1/26 大阪府建築士事務所協会新年交礼会
- 1/27 理事及び監事候補者選考委員会
- 2/ 1 泉南市長面談
- 2/ 2 日本建築材料協会会長面談
- 2/ 3 能勢町長面談
豊能町長面談
- 2/ 4 在阪建築4団体会長会議
- 2/10 杭基礎講習会の講師として講義
- 2/13 近畿青年建築士サミット出席
近畿2府4県建築士会会長会議
- 2/18 近畿建築確認検査協会10周年式典
貝塚副市長面談
阪南市長面談



竹中 泉南市長



山口 能勢町長



田中 豊能町長



波多野 貝塚副市長



右：福山 阪南市長 左：岡本会長

運営委員会

次期の理事及び監事候補者の選考

本年5月で18名の理事及び1名の監事の2年の任期が満了するのに伴い、1月27日に次期の候補者を選出する選考委員会を開催しました。

選考では、本会役員としての資質を備えると共に、会員の声を運営に反映できるよう、幅広い建築専門分野から選出すること等を基準にしております。特に来年度は、府内の地域貢献活動及び研修事業の強化に尽力いただくことを重視して、会長及び各委員会から推薦を受けた23名の正会員を対象に選考を進めました。その結果、理事19名、監事1名を選考し、

2月度理事会において、これらの候補者を総会に諮ることが承認されました。理事・監事候補者の詳細につきましては、5月の建築人に同封する定時総会議案書で会員の皆様にお知らせします。

運営委員会

会計規程の改定

本会は平成25年に公益社団法人に移行しましたが、会計規程は移行以前に制定されたものであったため、規程内容の見直しを行いました。

新規規程は、公益法人運営の実態に沿ったものとし、かつ、さらなる会計業務の透明性を図ることを目的に、収支予算や財務諸表等の作成手順や内部チェック機能の明文化を図るなど、公益法人として相応しい内容としております。

改定案は1月度理事会の承認を得た後、本会を所管する大阪府に報告しました。

建築表彰委員会

平成27年度建築関連学校優秀卒業生の表彰

建築業界の将来を担う優秀な学生を表彰し、卒業後の励みとして一層の精進を期待することを目的に、平成25年度から行っている建築関連学校の優秀卒業生表彰は、本年度の表彰対象者として登録校から15名の卒業生の推薦を受けました。特に学校の希望がない限り、本会会長又は副会長等の役員が卒業式等に出席して対象者に直接表彰状を授与します。

なお、本年度登録校は大阪大、大阪市大、大阪芸大、大阪工大、関西大、近畿大、摂南大、大阪工技専、中央工学校、修成建設専、日本理工情報専の11校15学科です。

建築表彰委員会

第25回「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクールの受賞者決定

「あすなる夢建築」は、建築を学ぶ専修学校、高等学校等の学生を対象とする設計コンクールで、本会・大阪府・大阪府住宅供給公社が主催して平成3年から毎年実施しており、最優秀のグランプリ作

品は実際に建設されます。

今年度は、「長く生き続ける住まい」の課題で戸建住宅の提案を募集し、16校から269作品の応募があり、1月29日に審査委員会を行いました。

審査委員会では、グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品賞2点、佳作3点、奨励賞3点を選定し、表彰式と受賞者によるプレゼンテーション及び作品展示を3月29日13時～17時に西区千代崎のハグミュージアムで行います。

建築表彰委員会

第60回大阪建築コンクールの応募及び審査状況

今年で60回を迎える大阪建築コンクールは1月29日で応募受付を締め切り、大阪府知事賞部門43件、渡辺節賞部門14件の申し込みがありました。

2月19日に竹原義二審査委員長他4名から構成する審査委員会において書類審査を実施し、大阪府知事賞部門10件、渡辺節賞部門4件に絞り込みました。

今後、3月4日・7日の現地審査と最終審査を経て、入賞作品の決定を行います。

「楨文彦展」実行委員会

「楨文彦展」の準備状況

昨年末から実施検討を重ねておりました「楨文彦展」は、梅田のNU茶屋町において、「未来へのメッセージ」をテーマに4月22日（金）から5月29日（日）の38日間にわたり開催し、5月13日（金）は中之島の大阪中央公会堂において講演会を開催することが決まりました。

展覧会の開催場所は、梅田の繁華街に位置し、多くの来場者が見込めます。入場は無料として、建築関係者はもとより多くの一般府民の来場を促し、建築デザインの素晴らしさや大切さ、ひいては社会における建築士の役割の重要性の認識を深めていただきたいと考えております。実行委員会では、楨文彦氏が素晴らしいメッセージを発信するのに相応しい展覧会にしたいと意気込んでおります。展覧会・講演会の詳細につきましては、同封の案内チラシをご覧ください。

監理技術者講習を受講して

日程：平成 28 年 1 月 22 日（金） 会場：大阪府建築健保会館 参加者：29 名

松村和吉（本会耐震部会代表幹事）



建設業界の現状、監理技術者制度と責務、契約制度については DVD で受講し、監理技術者の役割、内容等が改めてよく理解できました。

施工計画と施工監理、環境管理については(株)鍛冶田工務店 吉野氏からご説明して頂きました。施工計画の策定では総合施工計画、施工計画図、施工計画書の作成、工事別施工計画書等の提出内容がよくわかりました。

品質監理、安全衛生監理については(株)新井組 藤田氏からのご説明で、検査の流れ・検査方法では受入検査、施工段階検査、社内検査等が行われ、品質管理では一つひとつのプロセスの中で造り込みを行っていくことが重要なことなどお話しいただきました。

最新技術と材料の動向については(株)フジ

タ 大井氏からご説明して頂きました。建築基準法改正に伴う天井脱落対策（耐震天井）太陽光発電設備、各種解体工法（高層ビル解体）、エレベーターの耐震基準改正など、新材料、新各工法が色々あるのに驚きでした。

講習会を受講して感じたことは、建築設計監理を業としている者として、役所の施工監理業務において工事請負契約から始まり施工計画、施工監理、安全対策、書類整理等現場において行わなければならないなど、検査、書類提出業務が山積していることです。事務業務に時間がとられることが多く大変です。今回の受講内容は実務にたいへんプラスになりました。

施工監理者（監理技術者ではない）としてまず行わなければならない総合施工計

画、施工体制台帳、施工体系図を確認し、工事の職種、施工業者の技術レベル等を把握し、工程表、各施工要領、材料承認、搬入材料確認、各検査立会を行っていく上で、施工者のレベル等でスムーズに事が進まない場合を考えた場合、監理技術者講習を受講して改めて工事の流れがよく理解できたように思いました。施工面から改めて施工監理業務を考えることができました。

施工において専任の監理技術者、主任技術者であれば十分な内容の書類提出がなされることを期待しています。

昨今、法改正による書面による契約義務化、地震対策、リサイクル、環境管理等などの日進月歩の中で監理技術者講習を受講できたことは有意義であったと思います。

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》を受講して

日程：平成 28 年 1 月 19 日（火） 会場：大阪府建築健保会館 受講者：36 名

榎 理恵（本会会員）



日々の業務において木構造に関わる機会が少ないのですが、耐震改修への関心が高まるなか、身近な問題として少しでも理解しておくべき内容であると考え、「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》」を受講しました。

今回の講習会は、主に意匠設計担当者向けの講習であるとのことでした。

限界耐力計算法による耐震診断を行う上での概要説明と計算の流れについて、演習を交えた内容で、計 5 時間半ほどの講習です。

復元力特性・耐力係数・等価剛性・等価周期・減衰定数・応答スペクトル・地盤増幅率。限界耐力計算に関わる七つのキーワードは、知っている用語ですが、ひと呼吸吸かないと頭の中に入っていない、そんな用語です。

今回の教材であるマニュアルの条件に合った建物であれば、①正しく建物重量・部材・形状を認識して、②復元力特

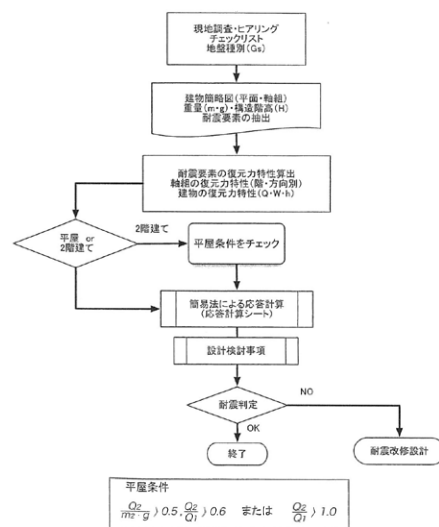
性シートを利用して架構に応じた変形時の耐力を求め、③平屋モデル条件に合うかを確認し、④耐力係数・等価剛性・等価周期・減衰定数を求めた後、⑤地震応答計算シートに耐力係数と減衰定数を当てはめれば判定が可能となる、といった手順です。

限られた短い時間の中で、役立つ内容ができる限り伝えようとするためか、講師の方々はとても早口です。日頃使わない用語が多く、テキストの参照ページも多数にわたるため、少しでも聞き漏らすと途端に迷子になりそうな感じです。

計算法自体はかなり簡素に利用できるようにマニュアル化されていて実用性を感じるのは、テキストは構成が入り組んでいるのか、後に参照するには目当てのページを探しにくい印象があります。

一度の講習で習得するのは難しいと感じました。最後に、耐震診断の現地調査でも、現状を的確に見極めることが重要で

あり、いろいろと課題の見つかった受講となりました。



限界耐力計算を用いた木造住宅の耐震診断フロー図

公益社団法人 大阪府建築士会 平成二七年度定時総会記念講演

榎 文彦 「未来へのメッセージ」

昨年五月二八日に開催された本会の平成二七年度定時総会にて、建築家の榎文彦先生に「未来へのメッセージ」と題するご講演をいただきました。本誌三月号では、榎先生による講演記録を掲載いたします。なお、来たる四月二二日より本会がNU茶屋町にて「建築家榎文彦＋榎総合計画事務所の五〇年展」を開催いたします。本誌五月号では榎先生へのインタビュー記事を掲載する予定です。どうぞご期待ください。

まきふみひこ

1928年 東京生まれ

1952年 東京大学工学部建築学科卒業

1953年 クランブルックアカデミー

オブアーツ修士修了

1954年 ハーバード大学デザイン学部

大学院修士修了

1956～1961年

セントルイス・ワシントン大学

建築学部准教授

1962～1965年

ハーバード大学デザイン学部

准教授

1979～1989年

東京大学工学部建築学科教授

1965年 (株)榎総合計画事務所設立、

代表として現在に至る

国際賞受賞

ウルフ賞、プリツカー賞、UIAゴール

ドメダル、フランス芸術・文化功労勲章、

高松宮殿下記念世界文化賞、AIAゴー

ルドメダル他

国内賞受賞

文化功労者、日本建築学会大賞、日本

芸術院賞、朝日賞、村野藤吾賞他



はじめに

只今、ご紹介いただきました横でござ
います。私自身大阪とはとても長いご縁
がありまして、ここ大阪でお話をさせて
いただくことを大変光栄に思っておりま
す。「未来へのメッセージ」と題してお
話させていただきますが、建築家の職務
や目的について、状況が変わればそれら
も変わるといったことはあつてはならな
いのではないかと、つまり変わらないこと
がとても大切ではないかと考えます。今
日のように情報が多く、さまざまな形で
我々の仕事に影響を及ぼしている状況の
中で、われわれはあまり右往左往しない
方がよいのではないかというふうに私自
身の経験を通して感じています。

漂うモダニズム

まず、最初に私が建築、特にモダニ
ズムと六〇年以上向き合ってきた、何が
変わってきたかということをお伝えしま
す。『新建築』の二〇一二年九月号で、
私は「漂うモダニズム」という論文を
発表しました。そこで考えたことを題材に
お話を進めます。

初期のモダニズムは、明確な目的やマ
ニフェストとともに登場し、それまでに
ない建築のスタイルを持っていました。
私が目撃した一九七〇年頃までのモダ
ニズムは、一言でいえば誰もが乗っている
「大きな船」のようなものだったのです。
具体的な行先はわからなくても、「進歩」
を駆動力にした一隻の船に乗り、前へ進
む感覚を共有していました。近代建築を
実践していくうえで、当面不安を感じる
ようなことはないだろうと、ほとんどの
建築家たちが考えていたと思います。

その船に乗る建築家たちは千差万別で
す。ル・コルビュジエ、ミース・ファン・
デル・ローエ、アルヴァ・アアルト、あ
るいはフランク・ロイド・ライト、ルイ
ス・カーン：それぞれの建築家がまった
く異なったスタイルや思想をもっていま
す。ところが一九七〇年代を境に、一隻
の船からみな大海原に投げ出され、今度
は一人ひとりがバラバラに泳ぎ始めなく
てはならなくなりました。何を目的に設
計をするのかといったことは個々にある
のですが、私たちの創作のベースになっ
ていた思想や指針が力を失っていったの

です。

編集者の真壁智治さんが一七人の建築
家と批評家に対し、「漂うモダニズム」に
対してどう思いますか、あなたはモダニ
ズムをどう考えますかということ、エッ
セイを一年の間に書いてもらえるように
お願いをされました。それらがまとま
って「応答 漂うモダニズム」という本に
なつて出版されます（二〇一五年七月に
発行）。私はその一七人の方のエッセイ
を読んで、また応答を繰り返しています。
私は、こういうことを考えています。

あなたは どう思いますか？ いや私はこう
考えるという、そういうやりとりの場が
非常に少なくなつてきた現在、この「応
答 漂うモダニズム」という本は、今まで
の誰かが書きつ放し、言いつ放しという
こととは違う内容のものとなっています。

回想

少し前置きが長くなりましたが、この
後自分の若い時代からを少し回顧させて
いただきます。

このスライド (Fig. 5) の左上の写真は
私の東京大学時代の師である丹下健三先

生です。右上の写真はハーバード大学時
代のスペイン人の師でホセ・ルイ・セル
トです。ホセ・ルイ・セルトは、第二次
世界大戦の前にアメリカへやってきた人
です。

左下の写真の皆さんはほとんど鬼籍に
入つておられるのですが、菊竹清訓さ
ん、私、大高正人さん、黒川紀章さん
です。ちょうどこのとき五〇〇部限定で
「Metabolism 1960」という本を書きまし
て、ちょうど一九六〇年に東京でデザイ
ン会議があり、多くの建築家が海外から
呼ばれまして、そういった方々に配布し
たという思い出があります。

それから当時の若手の建築家が
「Team X (チーム・テン)」というのを
作りまして、その会議にちょうど私も出
席し、その後メンバーの方々と長い交流
が始まります。

なぜル・コルビュジエが真ん中にいる
かというと、やはり当時一番尊敬されて
いた建築家の一人にル・コルビュジエが
いましたし、丹下先生のもとで我々はい
つもル・コルビュジエの作品集を見てい
ました。前川國男先生、坂倉準三先生、

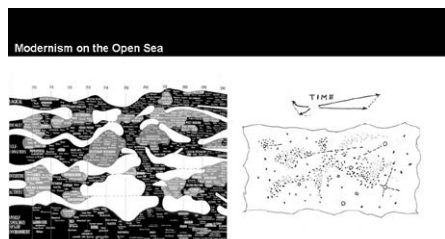


Fig 1

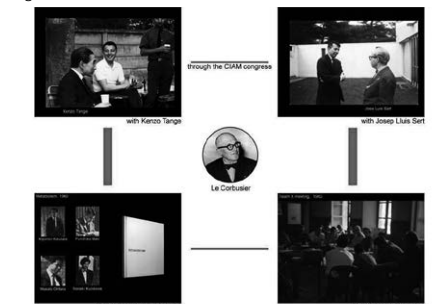


Fig 2



Fig 3



Fig 4

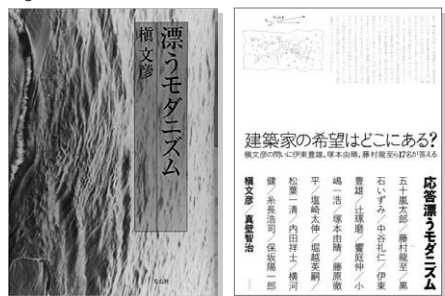


Fig 5

Fig 1 : Modernism on the Open Sea
(左) Charles Jencks, The Century is Over,
Architectural Review, July 2000.
(右) モダニズム建築が漂う大海原, 横文彦

Fig 2 : 横文彦氏に影響を与えた人物とグループ
中心 : ル・コルビュジエ 左上から時計回りに
丹下健三、ホセ・ルイ・セルト、チームX、メタボリズム

Fig 3 : 丹下健三氏と横文彦氏

Fig 4 : セントルイス・ワシントン大学スタインバーグホー
ルの図面を背にする横文彦氏

Fig 5 : 「漂うモダニズム」(左) 「応答 漂うモダニズム」(右)
(左右社刊)

8 ページ写真 記念講演時の横文彦氏 撮影 : 柳川陽文
特記のない資料及び写真提供 : 横総合計画事務所



Fig 1



Fig 2



Fig 3

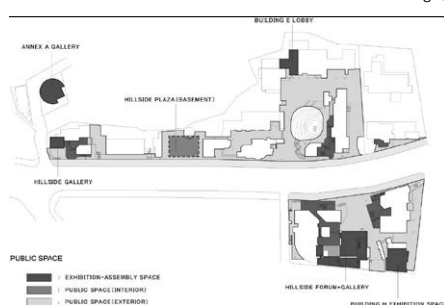


Fig 4



Fig 5

Fig 1 : ヒルサイドテラス空撮
Fig 2 : ヒルサイドテラスF・G棟間
Fig 3 : ヒルサイドテラスF・G棟と旧山手通
Fig 4 : ヒルサイドテラス配置図
Fig 5 : ヒルサイドフォーラムのカフェで孤独の一刻を楽しむ老紳士

吉坂隆正先生は、パリのル・コルビュジェのアトリエで過ごしていました。

一つ面白いのはあの頃の建築家は、みんな蝶ネクタイをしていたんです。これは私が一九五八年にアメリカで初めて設計したスタインバーグ・ホールのときの写真（前ページFig4）ですが、やはり自分も蝶ネクタイをしています。ハーバード大学の図書館にはヴァルター・グロピウスやマルセル・ブロイヤーといった建築家の蝶ネクタイのコレクションがあるんです。ハーバード大学のアーカイブが蝶ネクタイに目をつけてみんなから集めたというのを見せてもらいました。

ヒルサイドテラスとの出会い

アメリカでの生活にピリオドを打ち、東京で設計事務所を設立したのは一九六五年のことでした。それからまもなくして、代官山集合住居計画、後に「ヒルサイドテラス」と呼ばれる計画に携わることになりました。

私は、ヒルサイドテラスで、建築の集合とはどうあるべきかということを学ばせてもらいました。このヒルサイドテラ

スは、一九六七年から一九九二年の二五一年間に、六期にわたってつくられました。第一期の四年後に第二期、またその数年後に第三期と、間をおきながらこの計画が続いていったのです。ふつう、一つの建物をデザインするとき、その結果を具体的にフィードバックするチャンスは限られています。しかしヒルサイドテラスの場合は、先にデザインしていたところの結果を分析し、次のデザインの際に参照する環境にあったわけです。

そこで、パブリック・スペースをきちんとつくっていくことを大切にしました。第一期のときはこう、第二期のときにはこう取り囲む、あるいは第六期は南に面して小さな広場をつくる。そういったパブリック・スペースが歩道と直結している形で全体の集合ができています。

この図（Fig5）を見ていただくと分かりますように、建物自体をつなげるパブリック・スペースというものは、実はま

ちの核を構成しているわけです。また、住宅や店舗だけでなく多様性を確保することは、この計画において重視してきたテーマです。第三期が完成した

頃、ヒルサイドテラスを一つの文化拠点にすることをオーナーと話し合うようになり、それ以降、貸しギャラリー、小音楽ホール、図書室などを設けました。そういうさまざまなパブリックのファシリティを外部空間がつけなくていくということによって、まちの中に、ささやかですけれども、ある核ができる。そういうことが我々の都市生活にとって常に重要なことではないかと考えます。

当時、この一帯は第一種住居専用地域に指定されていて、建物の最高高さは一〇メートル、容積率は一五〇パーセントとの制限がかかっていました。現在のよう

ヒルサイドテラスでの情景

これは（Fig5）ヒルサイドテラスのF棟のカフェの写真です。自分のオフィスが近くにあるので時々行くのですが、必ずこの中の様子を見ます。老紳士が座っておられ、よく見るとクオーターボトルの赤ワイン、サンドウィッチとコーヒーを注文されています。赤ワインが半分くらいになったときに、サンドウィッチに手を付ける。それからサンドウィッチも終わってコーヒーを。私はずっと彼を見ていた訳ではありませんが、何となしに外を見続けておられました。カフェのアーテンダントの方に「どうい

う方ですか」とお聞きしたら、近くの教会の牧師さんであることがわかりました。

『孤独は私の故郷である』というニーチェの有名な言葉があります。皆さんは家でも孤独を楽しんでおられるかもしれませんが、パブリックのスペースにいて孤独を楽しむということは、都市生活の一つの豊かな経験になる。そういったことがわれわれの都市生活を豊かにしていく一つのベースではないでしょうか。私からその牧師さんへ写真を差し上げると

ともに、ニーチェの言葉をお伝えすると大変喜んでいただけたんですね。最近はずっとおられないので、カフェのアテンドの方に「あの牧師さん、どうしたんですか」と聞くと、「最近お亡くなりになりました」と言われました。そういった経験があります。

われわれ建築家にとって、もちろんにぎやかな場所をつくっていくことも必要です。しかし同時に、一人で何となしに楽しめる場所というものをつくっていくことが大事だなということを、こういうことから学ばせてもらいました。

風の丘葬斎場

次は、人口七万人の都市、大分県中津市の郊外の丘に計画された「風の丘葬斎場」です。既存の墓地と近年発掘された古墳群とが一体となったこの場所は、「風の丘」と名付けられています。

このプロジェクトに先立つ数年前に、われわれで図書館（中津市立小幡記念図書館、一九九三年完成）の設計を手がけました。市長から「横さん、実は今度葬斎場を考えるので設計をお願いできません

んか」と依頼がありました。当時葬斎場については多くを知らなかったのですが、市長はよく「煙が上がっているというような雰囲気は望ましくない」と仰りました。大きな公園をつくれる場所があるということ、市長の決断により葬斎場とともに大きな公園を作りました。まず公園の部分は楕円形の野原として計画され、真ん中には窪地が作られています。この野原を進むにつれ、周囲のランドスケープは視界から消え、まるで土のみに覆われたような場を体験することができ

ます。公園から見ると葬斎場は部分的に埋まったアースワークのように現れ、ところどころに建築の要素が、抽象的なランドスケープの中に独立した彫刻のように突き出しています。（Fig.2）我々は、周囲の景観の中に溶け込みながら、慎重に計画された空間のシークエンスによって死者へのお悔やみや尊厳の念を促すような建築をつくることを、設計の主旨としました。

中に入ると最初に玄関がありまして、ここで重要視したのは光です。周りから

独立した環境であって、光だけが上からと横から入ってきます。このスクリーンを通りますと最初のお別れの場所に出ます。ここではトップサイドから光が入ってきます。またスクリーンがあつて次に行く。そして葬斎場があるわけですね。ここで最後のお別れをするということです。で、そこに小さな中庭をつくっています。（Fig.3）あくまで静寂の空間でして、水と空あるいは光で形成された空間があります。そして遺体が運ばれていきます。その間にウェイティングスペースがありまして、一時間ほどすると遺骨がこの収骨室（Fig.4）に運ばれていきます。ここで家族・友人の方がそれぞれ灰と遺骨を分けます。

実は中津に行きますと、市民の方に「ありがとうございます。これで私たちも平和に死ねます」というようなことを随分言われた経験があります。今の葬斎場というのは予算の無いところは非常に粗末で、その一方、最近の東京の葬斎場は部屋単位になっていて、広大な所に沢山扉があつて、なるだけ早く処理できるようにしているという雰囲気があります。結

局葬斎場というのは、最後のお別れをする時間と空間を持つべき所なんです。

ここでの経験を通して発見したことは、建築家の一つの役目というのは、一般市民の方が潜在的に持っている希望、願望をどういう形で見つけ出すのかということですが、常にうまくいつているわけでもないのですが、社会の、ある潜在的な願望について考えていくことがやはり大事なことはないかと思いました。

三原市芸術文化センター

続いて人口一〇万人の都市、広島県三原市の中心部からそう遠くない宮浦公園の一隅に建設された「三原市芸術文化センター」についてお話しします。それまでは、旧文化センターと武道館がありました。この公園は、野球グラウンドも含めて地域の住民によく使われ、センターの近くには小さな子ども遊び場となるチルドレンズ・ガーデンもあります。どの中小都市にも見られる普通の公園です。一方、一二〇〇席の多目的ホール、それにリハーサル、練習室等本格的な支援施設を持つこのセンターは、ポリユーム



Fig 1



Fig 2



Fig 3

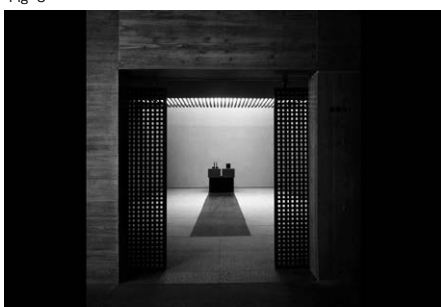


Fig 4

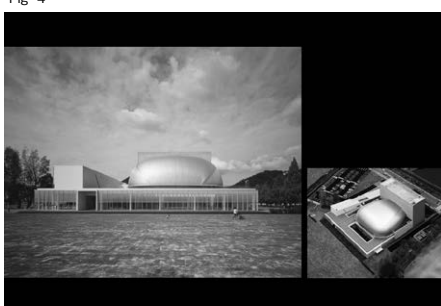


Fig 5

- Fig 1: 風の丘葬斎場 空撮
Fig 2: 風の丘葬斎場
Fig 3: 風の丘葬斎場 中庭
Fig 4: 風の丘葬斎場 告別室
Fig 5: 三原市芸術文化センター

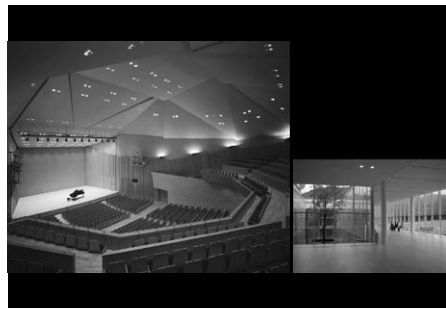


Fig 1



Fig 2



Fig 3



Fig 4

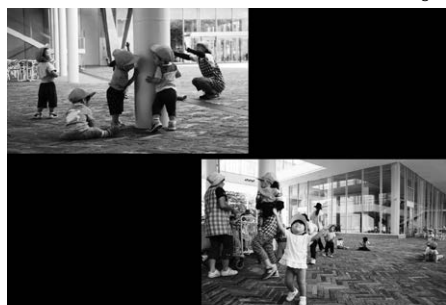


Fig 5

Fig 1：三原市芸術文化センター メインホールとホワイエ
Fig 2：三原市芸術文化センター
Fig 3：東京電機大学 東京千住キャンパス
Fig 4：東京電機大学 東京千住キャンパス
Fig 5：東京電機大学 東京千住キャンパス プラザ

だけでもかなりの大きさを有します。与えられた環境とプログラムの中でわれわれがまず第一にイメージしたのは、公園の中のパビリオンのような佇まいを持った建築の姿でした。人口一〇万人の都市です。で、一二〇〇席が一杯になり、ホワイエが公演の前後であふれるといったことは年間を通じて常時あることではありません。議論を何回も重ねた結果、従来の、どちらかというと観客席と一体となった大きなホワイエを避け、大きなイベントがない時は市民や公園に遊びにきた人たちが気軽に休んだり、展示も含めたさまざまなイベントに参加できたりするような、もっとヒューマンなスケールを持ったホワイエの方がふさわしいのではないかと考えるようになりました。

このスライド（前ページ参照）は、開館の前日、われわれが現地を訪れた際に撮影した写真です。お母さんと子どもが先ほど話しましたチルドレンズ・ガーデンに向かう風景です。こういった静かな風景がこのパビリオンの一つの性格を表しています。パビリオンの真ん中に小さな中庭を少し取りまして、天気の良い

日は夜もここを使います。

写真（写真）は一二〇〇人のホールです。右側にお見せしているのは、何もないときは市民の方がここへやってきて、何とはなしにくつろいでいます。それから子どもたちがそこからテラスに出られるようになっていきます。

この写真（写真）はおそらく後ろのホールで公演があった日の夜の風景です。右の写真のように芝生の庭を利用していろんなイベントが行われています。

このホールの形は日本の正月を祝う鏡餅の形です。単に丸いというのでは面白くないだろうということで、球体を押し潰した形にさせていただきました。

ということ、やはりパブリックスペースというのは、にぎやかな活動にも必要だけれども、同時に先ほどヒルサイド・テラスでお話した牧師さんの例のように、一人でいても楽しい空間がわれわれの都市に求められているのではないのでしょうか。

東京電機大学東京千住キャンパス

東京電機大学は、創立一〇〇周年を機

に創立地・神田から北千住に移転し、新しく東京北千住キャンパスを開設しました。

ここにはかつて日本たばこ産業の杜宅があり、その跡地を東京電機大学が購入しました。キャンパス周辺の交通量は激しくはありませんが、周囲には住宅や学校、企業に囲まれたかなり高密度なところ。地域の方々がいつでもキャンパスを通ることができ、駅への近道としても利用できる、そういった場所にしようということになりました。

キャンパスの真ん中を公道が通っています。学生たちは、道路だけでなく、道路を挟んだ建物と建物をつなぐブリッジを往き来します。もちろん、住民の方々もキャンパス内を通って駅に向かいます。

スライド（写真）には駅前の交通広場が写っていますが、その奥にカフェと半屋外のロτζジアという空間をつくりました。イタリアのボローニヤに行きますとマッジョレ広場に面してロτζジアがあり、そこでは市民がおしゃべりしたり、ちょっとしたものを売ってみたり、いろんなことができる場所となっています。

同じような目的でカフェのすぐ前にこういう場所をつくると、近所のおばさんたちが来て……ということが起きてくるわけです。ですから住民の人も広場からロτζジア、すぐ後ろのカフェ、それから大学のギャラリー、向こうへ渡ると図書館があつて登録すれば誰でも使えるといった環境をつくりました。

スライド（写真）はキャンパスプラザを写したのですが、この広場に面して学生食堂や図書館があります。非常に面白かったのは、ある日来てみると、近くの幼稚園の先生が園児を連れて来ているんですね。ここへ来ると子どもが伸び伸び遊べるだろうということ、こんな風景が展開しているわけです。これは、やはり日本がまだ安全だからということがいえます。そして、こういったところの柱は丸い方が良いと思います。子どもは丸い柱の方がお母さんにいつもしているように抱きつくことができるからです。人間は空間の中で見ることによって、何かを感じ、そして振る舞うという特性を持っています。たとえば子供の振る舞いは文化、時代を問わずユニヴァーサル

であると言えます。

横浜アイランドタワー

次は二〇〇三年に完成した横浜アイランドタワーです。敷地は、新しいまちである「みなとみらい21中央地区」と開港以来の歴史を持つ「関内地区」との接点に位置します。幹線道路の三叉路に位置する低層部については、旧横浜銀行本店別館（一九二九年に「第一銀行横浜支店」として建造）の先端部分を移築・再現しました。特色ある先端バルコニー部分は、約一ヶ月を費やして約一七〇mの曳家工事を行いました。後部の外装部分と一階の銀行ホールについては、元の建物の外装及び内観を出来る限り忠実に再現しました。

真です。外から見れば昔のままの雰囲気です。数百メートル位置は変わっても、こういった再生ができることが、大事な話ではないかと思います。

「希望の家」

名取市文化会館多目的ホール

仙台市の南東に隣接する宮城県名取市で、われわれは名取市文化会館（一九九七年完成）の設計監理を行いました。ご存知の通り名取市には仙台国際空港があります。空港は、海側にあったため東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けました。

このスライド（Fig.3 右側）は、宮城県沿岸部の津波の被害状況を示しており、色が濃いほど津波による被害が大きかったことを示しています。文化会館は、仙台空港から車で十分程の距離ですが、空港よりも内陸にあるため津波による被害から免れました。

このスライド（Fig.3 右側）は、震災直後のエントランスホールの写真です。電気も通っていません。三月一日当日から多くの方が避難され、寝泊まりをさ

れました。一九九〇年代の比較的新しい施設ですので、近隣の学校体育館よりも快適に過ごせるということで、次の住まいが決まるまでの期間、避難生活を送られた方もいらっしやいました。

その後、ドイツのラインハルト・アンド・ソンのエルンスト財団から、ぜひ被災地への支援を行いたいということで、親交のあった方から我々に話があり、子どもと老人と一緒に時間を過ごすことのできる施設をつくることとなりました。ちょうど文化会館の南側が公園（波の庭）になっていましたので、そこを敷地として利用し、建築することになりました。

連絡があったのが二〇一一年で、市との話し合いを通して非常に迅速に進めることができました。二〇一二年一月には贈呈式を行うことができました。後ろにあるのが文化会館で、この小さな施設が市民文化会館の多目的ホール「HAUS DER HOFENUNG 希望の家」です。

木造の平屋建てで、建坪は約七〇坪です。中に汎用性の高い場所をつくったところ、どこからかピアノも用意すること

ができました。

子どもたちは非常にいい顔をしています。本を寄付してくださる方がいて、図書コーナーもあります。ちょっとした学芸会やイベントができる場所として、今も活発に使われています。

当初は、もつとお年寄りの方が利用されると思っていたのですが、どちらかというと子どもたちの利用が多いようです。市民会館の駐車場がすぐそばにあるので、お母さんが子どもを連れて行きやすく、バスも利用しやすい場所のようです。

長年建築をやっていますと、いろいろな経験をします。必ずしも、大きく立派な建物をつくる必要ではありません。小さくても市民の方と一緒に、市民が楽しめるいろんな場所をつくっていくことは、我々建築家にとっては、おそろく生涯でも大事な経験の一つになると思います。



Fig 1



Fig 2



Fig 3



Fig 4



Fig 5

Fig 1：横浜アイランドタワー

Fig 2：横浜アイランドタワー ホール内部

Fig 3：（左）名取市文化会館 （右）東日本大震災時の仙台市近郊における津波高さ

Fig 4：名取市文化会館ホワイエ 東日本大震災時の避難の様子

Fig 5：希望の家 名取市文化会館多目的ホール

15 ページ下写真 撮影：新建築社



ヒルサイドテラス

希望の家 名取市文化会館多目的ホール





東京電機大学 東京千住キャンパス

アガ・カーン・ミュージアム





Fig 1



Fig 2



Fig 3



Fig 4

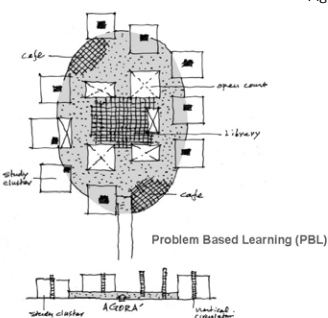


Fig 5

Fig 1 : マサチューセッツ工科大学 メディア研究所
コンセプトモデル
Fig 2 : マサチューセッツ工科大学 メディア研究所
ラボラトリー
Fig 3 : マサチューセッツ工科大学 メディア研究所
ルーフテラス
Fig 4 : シンガポール理工系専門学校キャンパス
Fig 5 : シンガポール理工系専門学校キャンパス
コンセプトスケッチ

マサチューセッツ工科大学 新メディア研究所

ここで話題を海外の案件に移します。

MITのキャンパス内でメディアラボを設計してほしいという依頼がありました。日本の公共施設だと、予算も土地も決まっています、短期間で建てられるのですが、海外の大学ではなかなか同じようには進みません。一九九八年に依頼があり、竣工が二〇〇九年でしたから、やはり海外の仕事というのは非常に時間が掛かる場合が多いです。

一九五三年、私がハーバードの学生るときMITに「100 Memorial Drive」という建物が完成しました。当時ハーバードの学部長はスペイン出身のホセ・ルイ・セルト、MITの学部長はイタリア出身のピエトロ・ベルスキで、二人は同じヨーロッパ出身ということもあって共に喜び合い、オープニングの後両校の学生がそのペントハウスに招待されました。その頃は、五〇年後に自分がその隣に建物を建てるということは全く想像していませんでした。

七つのメディアラボというのは東西南

北にかみ合っていました、その中の一つ一つ独立した研究組織が配置されています。MITには軍事関係の研究を委託されているセクションもありますが、メディアラボはそれらとは違い非常にオープンで透明性があります。

メディアラボ創設者であるニコラス・ネグロポンテ氏から依頼があった時、最初に「一つの大きな家のようなものをつくってください」というお話があり、このような形になりました。

真ん中を見ていただくと分かるように、ここは三階で、周囲もそれぞれにラボがありますが、すべて透明なため、誰がどこにいても自分との関係が分かりやすい空間になっています。(Fig. 2) これがラボの風景ですが、ここですべての異なる人たちのカンファレンスルームやイベントスペースなどがあります。

この透明性ということがメディアラボでは大切で、ラボ内では、別の研究室の人が研究室をのぞいて雑談をしたり、質問したり、そういうことが日常的に自由に行える場所となっています。ガラスな

ので、縦方向、水平方向、斜め方向に視線が通る形になっています。

これ (Fig. 3) は、最上階のコーナーにあるテラスです。後ろに見えているのはボストンの町並みで、私が学生だった六〇年前は、まだ大きな建物はなかったのですが、旧市街地は今でもあまり変わっていません。根こそぎ変わるようなことは意外と少ないまちだと感じました。夜になりますと、アルミのスクリーンが透明化します。なぜアルミのスクリーンかというと、ボストンには環境性能を評価する仕組みがあり、エネルギーコントロールが厳しかったため、普通の建物ですと透明な窓は五〇%しか開けられませんがスクリーンにすることで要求基準をクリアして、透明性を創出しました。これはネグロポンテ氏の要望でもありました。一方、十分な日照は確保してほしいということ、モックアップによる検証を通して、アルミスクリーンの建物が実現しました。

シンガポール理工系専門学校キャンパス
続いて、シンガポール理工系専門学校

キャンパスです。二〇〇二年に国際設計競技によりわれわれが設計者として選定され、二〇〇七年に完成しました。すぐ北のジョホール海峡を超えるとマレーシアで、国境に近い場所です。ここは昔、イギリス軍の監獄があった場所で、我々が初めて訪れた頃はまだその塀などが残っていました。そこに新しく理工系専門学校のキャンパスをつくりました。全部で二〇万㎡以上の敷地ですからかなり広い敷地です。

この学校は、非常に特殊な教育体制で、プロブレム・ベースト・ラーニング (PBL) といい、イギリスで開発された教育プログラムを行っています。先生が授業をするのではなく、各学生に課題を与えます。朝出された課題をキャンパスの好きなところで研究して、夕方にそれを持ち寄り、課題を出した先生と議論するといったことを繰り返します。そのため、クラスルームは非常に少ないです。ちょうど建築のアトリエのような個々のスタジオスペースが用意されていますが、学生は場所を選ばずいろいろな場所で学習しています。市民が集う場所という意味

の「アゴラ」と称する場所があり、学生は「アゴラ」に集まって一緒に研究しています。

真ん中は図書館になっており、カフェやフードコートもあります。真ん中の通路は、ゆるやかに傾斜していますので丘の街みたいに見えます。思い思いに学生たちが集まって話をしたり、学習したりできる場所となっています。これも先ほどのMITと同じように透明で常に全体が分かる仕組みになっています。キャンパス内は無線LANが設置されたワイヤレス空間なので、図書室でもみんながラップトップパソコンを持ってきて、ディスカッションしながら研究をするといった風景が見受けられます。

シンガポールはご承知のように複数の人種が集まっている国で、人口の七〇%が中国系、二〇%がマレー系、一〇%がインド系です。時折、マレー系の学生が即興で歌を披露するといった風景も見られます。われわれがつくったスネークベンチがありますが、そこでも学生たちが語っています。(Fig2)

面白いのは、図書館の真ん中の所です。

ちよつとした休憩コーナーがあつて、ビリヤード台があります。キャンパスの一番中心部にある図書館でビリヤードができるのです。前回行った時にも、学生たちがビリヤードを楽しんでいるのを見ることができました。一般の大学とは少し違ったイメージになったと感じています。フードコートには、中華料理、インド料理、マレー料理、日本のそばも揃っています。豚肉とエスプレッソもあります。多国籍国家ですから、多様な文化がカフェテリアでも表現されています。

ビハール博物館

次は、現在工事中のインドのビハール州の州都であるパトナの新しい州立博物館です。美術館といってもいいでしょうか。ビハールという州は、ちょうどデリーとカルカッタ(コルカタ)市の真ん中くらいの距離に位置しており、先日(二〇一五年四月二五日)地震があつたネパールと国境を接しており、ちょうど南側に位置します。ビハール州の北部は地震による被害がありました。パトナはもう少し南で離れています。

ネパールはお釈迦様の生まれたところですが、隣接するインドではヒンドウ教の方が強く、仏教はネパールからそのまま中国、韓国、そして日本へ伝わって栄えるという形になりました。それでも、インドには多くの仏教遺跡があります。

博物館の敷地は非常に長く、五〇〇mもあります。最初に入っていきますと、ここに玄関があります。こちらにはチルドレンのミュージアム(子ども博物館棟)があつて、その庭があります。こちらに行きますと、美術博物館のコンテナス。ここにある茶色い壁は全部鉄です。

ご承知のように最初に鉄が生まれたのがインドです。製鉄は、インドから島根を通じて日本に入ってきました。島根は、日本で最初に製鉄が行われた場所です。そのため、インドの製鉄技術を背景として、コルテン鋼をより盛大に使うということになり、今、一生懸命工事をしているという状況です。

コルテン鋼の壁とサンストーン(日長石)という石を使った建物になります。インドでは、コンクリートの打ち放しは技術的にあまり期待できないので選択し

ていません。しかし、できるだけ恒久性の高い建物にしたいと考え、今回の提案となりました。

このCG(Fig5左下)は、エントランス棟です。左側がギャラリーになっていて、中庭に向かって開口部を設け、回廊や中庭でつながっています(Fig5右下)。今のところは二〇一五年八月の完成を目指していますが、絶対にできないということはみんな分かっているのです。おそろくちゃんとオープンできるのは来年(二〇一六年)早々くらいになるのではないかと思っています。

昨日(二〇一五年五月二七日)の新聞でも、デリーでは何百人が亡くなったというくらい熱波が来ていますし、この後、雨季があるので、工事もそういう状況の中でよく進められるな、と我々も注目しています。先日インドを訪れた際、塩を入れた飲み物がありました。私が初めてインドに行ったのは一九五九年の五月で、そろそろ暑くなるという時期でしたが、ある人から「まず朝出掛ける前に塩をなめておけ」と言われました。同じようなことが今でも普通に行われていました。



Fig 1



Fig 2



Fig 3



Fig 4



Fig 5

Fig 1: シンガポール理工系専門学校キャンパス 図書館

Fig 2: シンガポール理工系専門学校キャンパス アゴラ

Fig 3: (左) ビハール博物館

(右) 1959年のインド初訪問時の写真

Fig 4: ビハール博物館

Fig 5: ビハール博物館



Fig 1

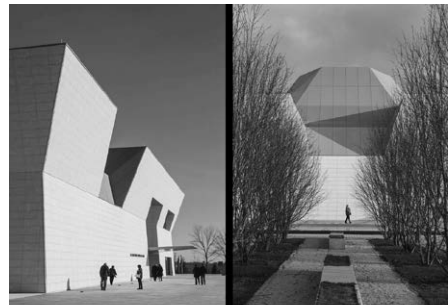


Fig 2

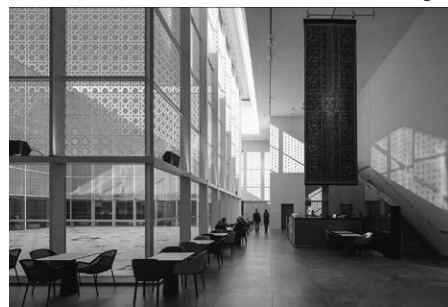


Fig 3



Fig 4

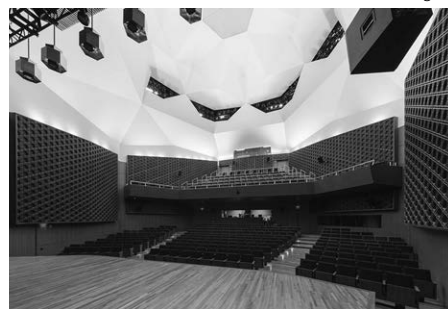


Fig 5

アガ・カーン・ミュージアム (Aga Khan Museum)

続いては、カナダのオンタリオ州トロントに二〇一四年九月にオープンしたアガ・カーン・ミュージアムを紹介しましょう。アガ・カーン氏は、イスラム教シーア・イスマイリ派第四代イマーム（最高指導者）です。われわれは、彼の活動団体のための施設である「イズマイリ・イママツト記念館」をカナダのオタワで設計し、二〇〇八年に竣工しました。その実施設計をしていた頃に、協働作業の経験からわれわれのことを高く評価してくれ、トロントに美術館を設計してほしいという依頼をしてくれました。

同じ敷地内には、チャールズ・コレアというインドの建築家によるイズマイリセンター（礼拝堂）があり、ヴラディミール・ジュルヴィツチ設計のイスラム庭園を挟んでミュージアムとイズマイリセンターとが対峙しています。

設計が始まる前に、アガ・カーン氏から五ページにわたる手紙をもらいました。イスラム建築に造詣が深い人で、何

自然の光を大事にしているため、今度の建築でも光を祀るように、大事にしてほしいということが書かれていました。また、彼は外観をイスラム風ではなくモダニズムで、中に入ればイスラムの雰囲気になるようにと希望されました。その結果、非常に気に入ってもらえる建物になりました。

やはり、可能であれば白い建物が一番、光と影の陰影が美しく現れる真っ白い石がよいと思いました。ただし、トロントの冬はとても寒くマールブル（大理石）では割れてしまします。ヨーロッパでもかなり有名な建築家みんな、大理石を外装に使って失敗しています。そのため、どうしたらいいか考え、一番白いグラニット（花崗岩）を一年かかって探し出し、結果としてブラジル産のマルゲリータという石を使うことになりました。真っ白の花崗岩というのは非常に稀少であり、潤沢な資金を持ち建築に理解があるアガ・カーン氏でなければ、現在のよう

に大量に使用することはできなかったのかもしれない。それと、もう一つ、この建物は二層で

すが、壁に少し角度を持たせたことで上部と下部との反射が違うので、自然に二層に見える外観となりました。

このスライド（右左）を見ていただくと分かるように、同じ石ですけれども、これくらい光の状況によって違います。また、天候によっても変わります。

普通のミュージアムではメインギャラリーがあつて、受付を通過して作品を見るのが一つの形式となっていますが、ここではもう少しデモクラティックにしようということ、真ん中にコートヤードをつくりました。二カ所から入れるようになっており人の流れがあります。ギャラリーやレストランもあります。それから、子どものちょっとした教育施設もあり、みんなが自由に休憩し、コートを囲んでいました。つまり、こういうところにイベントを目的とした人だけがお金を払って利用するのではなく、自由に通り抜けられ、自由に利用できる場所にしたわけです。非常に民主的な雰囲気のある場所です。スライド（右左）のように皆さん自由にくつろぎ、中庭ではいろんなパフォーマンスができるような空間となっ

ています。

これ（Fig4）はギャラリーです。これ（Fig5）はオーデトリウム（講堂）で、再来週ここで講演することになっています。ここは七つ階段ですね。なぜ七つかというと、イスラムは「7」という数字を大事にするからです。中国では「8」です。このように文化によって国民が大事にする数字などが違ってきます。

4ワールド・トレード・センター

最後になりますが、二〇一四年にニューヨークに完成した、4ワールド・トレード・センター（以下4WTC）について紹介いたします。4WTCは、アメリカ同時多発テロの跡地であるグラウンド・ゼロを対象とした、ダニエル・リベスキンドの「メモリー・ファウンデーションズ」というマスタープランに基づいて建てられた超高層ビルの一つです。二〇〇六年に建築家が計画案を持ち寄って、ニューヨークで初めて公開されることになりました。その際は、リチャード・ロジャース、ノーマン・フォスターと一緒でした。グラウンド・ゼロ全体がメモ

Fig 1 : アガ・カーン・ミュージアム
Fig 2 : アガ・カーン・ミュージアム
Fig 3 : アガ・カーン・ミュージアム レセプション
Fig 4 : アガ・カーン・ミュージアム 展示室
Fig 5 : アガ・カーン・ミュージアム ホール

リアルパークとなりました。このスライド(52頁)の真ん中の部分はかつてのツインタワーの跡地です。ここには二面のコートに水が張った慰霊場となり、その周りに建物が建っています。

リベスキンドのアイディアは、らせん状に建物の高さが上昇していくというもので、SOMによる1WTCが一番高く、その次がノーマン・フォスターによる2WTC、リチャード・ロジャースによる3WTC、われわれの4WTCが一番低いのですが、約三〇〇mあります。

写真(53頁)は、二〇一三年に一部オープンにしたときの姿です。われわれは、徹底してガラスの彫刻をつくろうとしました。建物は、反射率の高いコーティングを施した複層ガラスのファサードで覆われています。

普通のカーテンウォールですと中棧を入れなくてはいいけないのですが、幸いここでは、タッチマリオンという方式でガラスの背後に水平マリオンを納めることで非常に簡明な外観となっています。簡明なといっても幾つも細かく検討して、その結果できた建物です。

ガラスはミネソタ(アメリカ)、マリオンとサッシは韓国のソウル、アセンブリー(組み立て)はシンガポールです。ですから、うちの担当の者はしょっちゅう、この建物のためにシンガポールへ行っていました。

なぜシンガポールかというと、今は、世界的に物資の輸送に掛かるコストというのが必ずしもフィジカルではないのです。例えば、ミネソタのガラスというのは、二度太平洋を往復しています。ものすごい容量です。そのため、ある期待された技術がどこで一番安く手に入れられるのかということが結局アセンブリーの場所を決める基準になるのです。やはり、今こういうことで建築をやっていると、いろんなことが起きます。初めは知らないわけですが、知っておかなければならない。どこに何があるか、どこが一番経済的なコストでアセンブリーできるか。そういった検討をおこなって結論が出てくるのです。

見ていただくと分かるように、こういった建物の中でガラスの彫刻はやはり一つのアイデンティティを持っていると

いうことで、ニューヨークでも大変好評です。最近できたスカイ・スパー・トール(超高層建築物)の中では一番いいのではないかと、言ってくれる人もいます。

ストリートを挟んで4WTCの前にメモリアルパークがあります。このメモリアルパークには大勢の人が集まってくるのです。メモリアルパークは、黒い花崗岩の塀があつて、亡くなられた方の名前が刻まれています。我々の建物の中にも同じ黒いグラニット(花崗岩)を使いました。ちょうどミラー効果があるので、建物に入りますと、メモリアルパークの風景がみんな映し出されるわけです。さらに、エレベーターホールでは、六層のクリア塗装を施した高光沢の木パネルに一つは空、もう一つは樹木、それから水が映し出され、メモリアルパークの並木を連想させるようになっていきます。メモリアルパークのテーマを別の形で表現して関係性を持たせています。

これ(55頁)は非常に面白い写真です。左側が、一九七三年に私が偶然、フィラデルフィアからニューヨークに向かう電車の中から撮った写真です。当時はこの

辺りにファイナンシャルセンターがあつて、ミノル・ヤマサキの設計による二本の塔がそのままハドソン河に映し出されています。

右側の写真はニューヨーク側から撮ったもので、4WTCは時々姿を消すと言います。自分ではまだ経験していないのですが、これを見ると1WTCは確かにあるのですが、われわれの4WTCが消えて見えない。というのは、テロでは約三〇〇人がお亡くなりになりましたが、ある種の亡くなった方に対するオマージュではなかったかと思えます。ここでおしまいとなりますが、本日はご清聴をいただきありがとうございます。

(平成二十七年五月二八日

ホテル大阪ベイタワー)

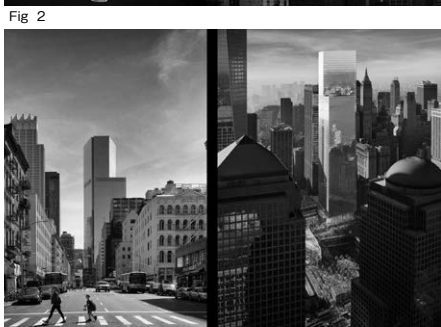
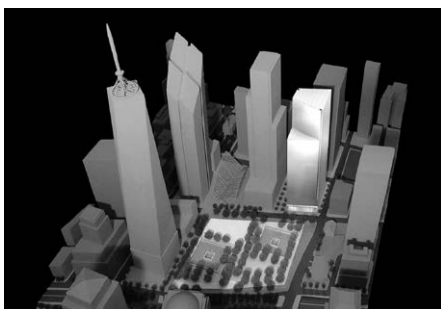


Fig 1: ワールド・トレード・センター 全体模型

Fig 2: ワールド・トレード・センター

Fig 3: ワールド・トレード・センター

Fig 4: ワールド・トレード・センター 配置図

Fig 5: (左) ミノル・ヤマサキ設計によるワールド・トレード・センター

(右) 4 ワールド・トレード・センター

本特集担当者(大阪府建築士会)

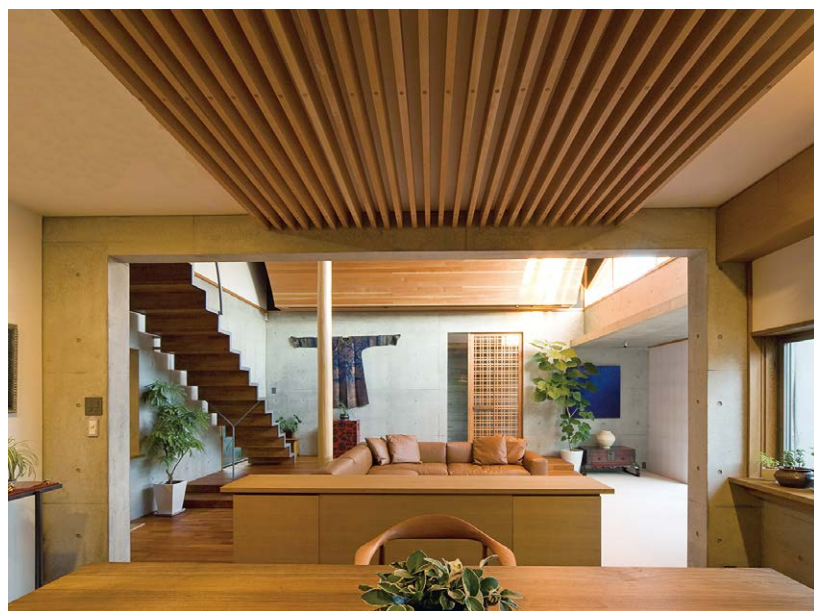
荒木公樹(空間計画株式会社・文責)

森本雅史(株式会社森本建築事務所)

西田貴之(作心設計事務所)

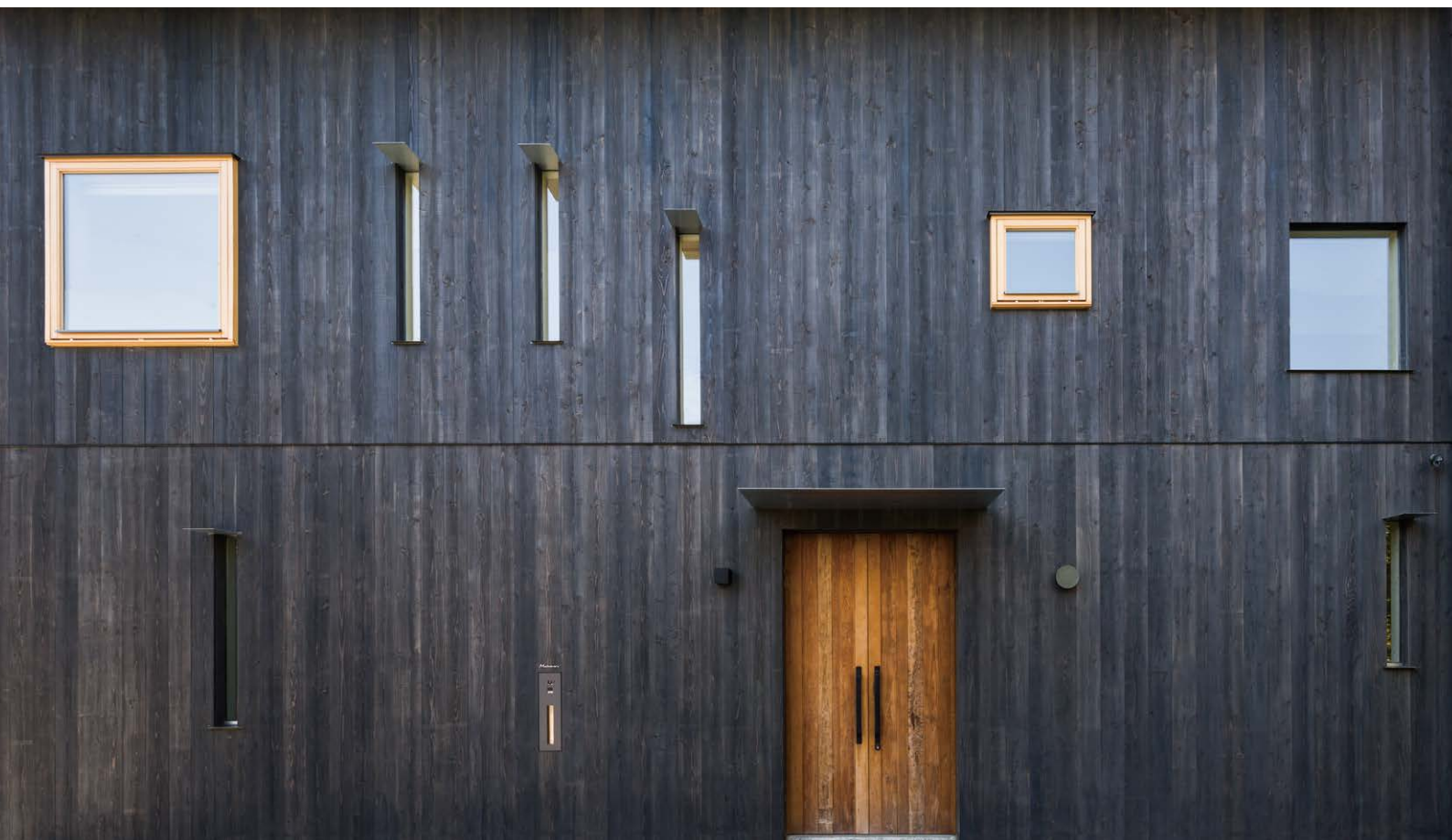
櫻井智美(株式会社阿波設計事務所)

牧野隆義(株式会社テンフォーテン)



この家は約20年前に設計した家（RC造3階建／夫婦＋子供3人）の南隣に建つ、同じご夫婦のための家である。前回の家が縦方向に広がりのある空間構成であったのに対し、今回はご夫妻も高齢になられたこともあり、主たる生活空間の構成は平面的な広がりを主題とした。そしてそれを外部にまで広げることで、内外空間の連続感をもたらしている。2階は予備室が1室あり、リビングの吹き抜けに浮かせ、この家の中心的な空間としての存在感を高めている。また、平屋部分の断熱を考慮した屋上緑化は、主庭や道路側の植栽ともつながり、周辺景観に潤いを与えている。この2戸の住宅は空間構成の手法や形は異なるが、違和感のない町なみ景観を形成している。（吉村篤一）

所在地：大阪府東大阪市
用途：専用住宅
竣工：2014.6
構造規模：1階RC造
2階木造
敷地面積：340.84㎡
建築面積：175.63㎡
延床面積：197.67㎡
写真：大島勝寛



神戸市住吉。六甲山の豊かな緑に恵まれ、大阪湾が眼下へ広がるこの山手の土地に、オフィス併用住宅を建築することとなった。周辺には、神戸市指定文化財である旧乾邸や、1934年開館の白鶴美術館などが点在する。住吉川から一本隣の道へ入ると、建物が姿を現す。しっとりとした色に塗装された杉板に、大小様々なスリットが全体に散りばめられている。特徴的なこの外壁が、庭の緑を周辺の背景から一層引き立てている。重厚なチークの玄関扉をくぐると、目の前にはフラットバーでデザインされたアイアンのオブジェがあらわれる。一階は、オフィスと寝室になっており、落ち着いた空間に絞られた光が取り込まれている。二階への階段を上がると吹き抜けの空間が広がる。一階とは性質の異なる、しかし落ち着きのある場所となった。優しい色調の内装に、施主が選定した家具が並ぶ。ランダムに配置されたスリットからは外の緑が垣間見え、正方形の窓に切り取られた景色は、まるで壁に飾られた自然画のようだ。季節が移り変わり、かけがえのない時間が流れ、自然に囲まれたこの土地に建築が馴染み、美しい景観の一部となってくれればと思う。

所在地：兵庫県神戸市
用途：専用住居
竣工：2015.10
構造設計：土屋設計
構造規模：木造
敷地面積：190.96㎡
建築面積：68.73㎡
延床面積：137.20㎡
写真：松村芳治

2015年12月号の本コーナーで「京都ペレット町家ヒノコ」を紹介させていただきました。今号は、そのような実践的な取り組みの理論的支柱とも考えられる『再生可能エネルギーと地域再生』という本を昨年末に編集・出版された、京都大学の諸富徹先生に「エネルギー自治」についてご紹介いただきました。

「エネルギー自治」の実践による持続可能な発展

諸富 徹

京都大学大学院経済学研究科教授。1968年生まれ。1998年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。2010年3月から現職。主著に、『環境税の理論と実際』有斐閣（2000年）、『環境＜思考のフロンティア＞』岩波書店（2003年）など。再生可能エネルギーと電力システム改革、その地域再生への影響に関心をもつ。

日本創成会議の人口予測に基づく「地方消滅論」は、人々に衝撃を与え、多くの議論を呼んだ（増田寛也編二〇一四）。たしかに、人の営みがその地域で受け継がれることは、「持続可能な発展」の一番の根本である。今後さらに進展する人口減少社会の中で、日本の各地域は、どのようなまちづくりを行っていけばよいのだろうか。

筆者が注目するのは、エネルギーを地域で自ら賄い、場合によっては他地域に供給する試みを行っている地域である。エネルギーなしで人間は生きていくことができず、人間がその地域に住み続ける限り、必ずエネルギー需要は存在するからである。問題はこれまで、エネルギーを自ら生み出していない点にある。

とはいえ、「消滅」が予測されている多くの地域では、工業製品やサービスだけでなくエネルギーでも、その購入を通じて所得が域外に流出している。エネルギーの域内生産によって、域外流出している所得を一部でも取り戻せないだろうか。その有力な手法となりうるのが、再生可能エネルギーである。

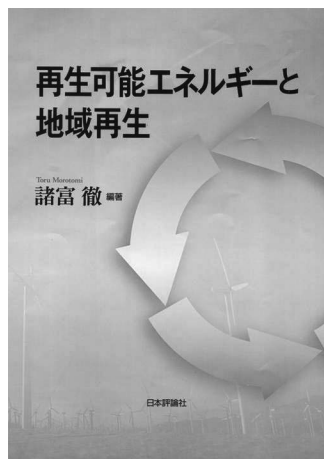
石炭、石油、原子力であれば、ほとんどの地域にとっては手の打ちようがないが、太陽光、風、水、森林ならば、多くの地域に豊富に存在する。それらを利用してエネルギーを生産し、さらに「再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）」を用いて売電することで、再び中山間地域に富を取り戻す展望がいま、生まれ始めている。実際、図1が示すように、FIT制度導入後に、再エネ設備の導入容量は急伸している。



都市にも同じことがいえる。多くの都市にとって、エネルギーは国、電力会社、そしてガス会社が担うものであって、自らが担う問題ではないと考えられてきた。しかし、ドイツでは各都市に公社があり、電気、ガス、熱、上下水道、廃棄物、そして公共交通に関するインフラを所有し、事業として経営を行っている。その経営状況は優良であり、収益は市民の利益になる形で還元されている。エネルギーは民間企業の利潤追求の手段ではなく、市民にとっての生存基盤であり、市民生活を豊かにするための手段なのだ。各都市は、地域エネルギー政策を展開することで、個性的なまちづくりを競っている。それが可能なのはエネルギーインフラを所有し、事業体を経営しているからである。こうした手段をもたない自治体は、無力である。日本の都市の持続可能な発展は、こうしたドイツ都市経営のあり方から多くを学べるであろう。

そこで筆者は、この点で先進的な取り組みを実践している北海道下川町、岡山県真庭市、そして岡山県西粟倉村の三つの自治体を対象とした調査を行った（諸富編二〇一五）。これら三つの自治体はいずれも、エネルギーを自分たちの問題として捉え、エネルギー生産に積極的な取り組みをしている点で共通している。しかも、それを域外の大手企業に頼るのではなく、その地域の自治体や地元企業が担おうとしている点に、先駆性とモデル性がある。本稿でいう「エネルギー自治」とは、以下の要素を含む。

- (1) 自分たちが消費するエネルギーを、地域資源（ここでは森林）を用いて自ら創り出す。
- (2) 上記目的のために、域外の大企業に頼るのではなく、自治体、もしくは地元企業を中心となって地域でエネルギー事業体を創出。
- (3) 域外から購入していた化石燃料を、より安価な地域資源（木質バイオマス）に置き換えることで、燃料費を削減、地域の実質所得を上昇させる（「費用削減効果」）。
- (4) それまでは、「化石燃料費支出」として域外に流出していた所得部分を、地域資源である木質バイオマスへの支出に置き換えることで、所得が地域に留まるようになる。つまり山林所有者や、エネルギーの生産、流通、消費に関わる地元事業者の利潤、雇用者報酬、自治体への税収の形で、地域の実質所得を上昇させる（「資金還流効果」）。
- (5) 地域資源の活用による燃料生産（薪、チップ、ペレットなど）から、エネルギー（電気・熱）の生産、流通、消費、



諸富徹編(2015),『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。



集約化による安定的な森林整備



西栗倉村の中心部影石地区を望む

そして廃棄物(灰)処理のプロセスで、関連産業が地域に発生し、地域に所得と雇用が生みだされる。

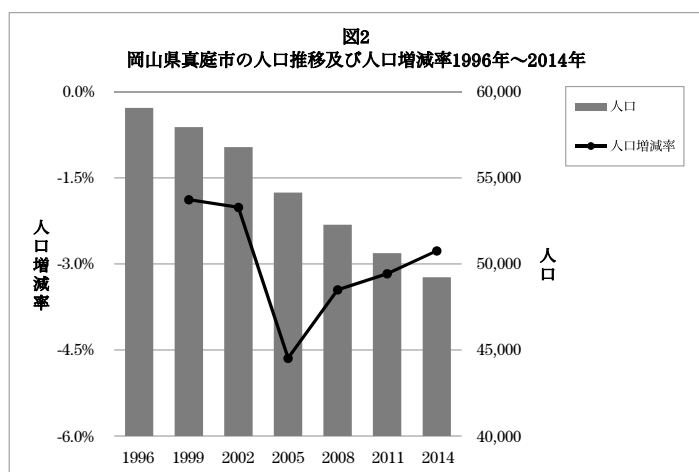
しかし、これらすべてを実現するのは容易なことではない。地域でエネルギーを生産し、事業として成立させるためには、住民や地元企業がリスクを取って事業体を創出しなければならない。また、事業を軌道に乗せるには、技術と経営の両面に精通した人材が必要である。さらに大きな壁は、資金調達面にある。この点では、市民共同出資、地域金融機関による出資、あるいは銀行融資、自治体による出資など、ファイナンスに関するさまざまな方法を検討する必要がある。こうした困難にもかかわらず、地域で「エネルギー自治」を実践していくことは、その地域のビジネス文化を変え、鍛え上げていくことにつながると考える。

「エネルギー自治」への取り組みは、持続可能な発展のための究極的な条件である「人口の維持」に資することにも、留意すべきであろう。上述の三つの自治体の人口動態を見ると、人口減少は引き続き続いているものの、近年、その減少の度合いが鈍化してきていることが分かる。それを、真庭市を例にとり示したのが、図2である。これを見ると、真庭市の人口は絶対数では減少傾向にあるものの、その減少率は二〇〇五年で底を打って改善傾向にあることが図から読み取れる。実は、減少率がこのように「V字」を描くのは、下川町や西栗倉村でもまったく同様に観察される点が、大変興味深い。

これは、日本創生会議による「地方消滅」論が話題に上り、人口減少がこれから本格化しようとしているときに、極め

て注目すべき事実だと思われる。もちろん、「エネルギー自治」への取り組みが、人口減少を鈍らせた」ことの因果関係は証明されていないので、この点は今後のさらなる研究を必要とする。しかし、これらの自治体ではいずれも、転入が転出を上回ることによって人口減少が鈍化しており、転入増加を引き起こしている要因の一つとして、「エネルギー自治」への取り組みがもたらす所得・雇用機会の増加が効いているものと推測される。

実際、地域の将来像を明確に描き、そこへ向けてチャレンジングな試みが行われている場に、若者が魅力を感じるのも当然である(諸富監修二〇一五)。例えば西栗倉村でベンチャー企業が叢生し、七〇名ほどの新たな雇用が生みだされた背景には、起業志向をもった若者に対して、牧大介氏をはじめとする西栗倉村の



【出所】「住民基本台帳人口・世帯数、人口動態(市区町村別)」に関する各年度データより、筆者作成。

【参考文献】

- 藤山浩(2015),『田園回帰1%戦略—地元の人と仕事を取り戻す』農文協。
 増田寛也編(2014),『地方消滅』中公新書。
 諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』中公叢書。
 諸富徹(2013),『再生可能エネルギーで地域を再生する—『分散型電力システム』に移行するドイツから何を学べるか—』『世界』10月号(No.848), pp.152-162。
 諸富徹(2015),『「エネルギー自治」で地域再生—飯田モデルに学ぶ』岩波ブックレット。
 諸富徹編(2015),『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。
 諸富徹監修 若手再エネ実践者研究会編(2015),『エネルギーの世界を変える。22人の仕事—事業・政策・研究の先駆者たち—』学芸出版社。

先駆的起業家が「ロールモデル」として機能し、さらなる若者の転入を引き起こすという好循環を生み出してきたことは間違いない。西栗倉村は、そうした若者に村への「入口」として「地域おこし協力隊」の制度をうまく活用している。この制度を活用して西栗倉村にきた若者たちは、「森の学校」や「村楽エナジー」で仕事に携わりながら、自分が起業するための教育・訓練を行う。こうして「卒業」した若者たちが地域に定着し、さらなるベンチャー企業を立ち上げていく。これこそ、地域の持続可能な発展にとって、もっとも基礎的な条件だといえよう。「エネルギー自治」が若者による企業と結びついて、人口減少下の持続可能な地域の発展に結びつくようとしている点に、新しい地域づくりのヒントがあるのではないだろうか。

「ずっと」かたの「もつと」かたの「を」目指したまちづくり

文 近田 邦彦

1. はじめに

交野市は、大阪府の北東部に位置し、大阪市、京都市及び奈良市までいずれも概ね二〇kmの距離にあります。生駒山系の連なり、そこから流れる天野川といった豊かな自然、そして平地部に広がる田園、集落という舞台に、歴史・文化が培われ、交通の利便性が整うと共に計画的な住宅地が形成され今日に至っています。かつての「田舎まち」から「田園都市」「住宅都市」へと発展し、平成二〇年には人口約七万八千人でしたが、これをピークに現在は人口減少へと移行しています。

少子高齢化・人口減少という社会潮流の中で、時代の流れや地方自治体を取り巻く環境を踏まえ、本市が抱える課題を着実に解決していくとともに、交野の地域資源や長所（自然環境、良好な住宅環境、コミュニティの力など）を生かし、このまちの魅力を高めるために取り組んでいく重点施策を示すものとして、今年度に「市長戦略」を策定しました。テーマは「ずっと」かたの「もつと」かたの「自然と人が共生し子育てと地域の絆で元気な交野!!」です。

今回、「交野のアツイところ!」のご紹介を、とのご依頼をいただき、アツイと言える様な取組みが出来ていない状況

ではありますが、建築士会の皆さんや建築の仕事に携わられる皆さんに、策定はやほやの「市長戦略」のなかで関心を持っていただけのような部分を中心に、これまで取り組んできた景観まちづくりなどについてもご紹介させていただきたいと思います。

2. 移住・定住の促進に向けて

市長戦略の「政策プラン」の中で「住みたい、住み続けたいまちづくり」を掲げ、その一項目として「移住・定住の促進」に取組むこととしています。

本市は、団塊の世代と呼ばれる人が若い頃に住み、発展したまちです。今、そうした団塊世代の子どもたちは親元を離れ、新たな家庭を築き暮らしています。民間のアンケートでは親世代、子世代ともに遠く離れて暮らすことに不安を感じているとの回答が多く、この結果は親世代、子世代のお互いに相手を思いやる気持ちの表れだと思われま

す。このような結果を踏まえ、今、自治体には、子育てしやすい環境や女性が活躍できる環境づくりが求められているという観点から、本市では子育て世代が親世代との同居や近居を推進することを目的として、移住・定住促進事業に取組むこととしています。

助成内容としては、本市内に一定期間以上居住する親世代と同居するために親世代の住居を改修、または親世代と同居するために本市内に住宅を購入し、市外から転居し定住を目指す子育て世代を対象に、引越し費用相当額を助成するものです。

3. 山手地域の抱える課題

昭和四〇年代頃に山手地域では大規模な住宅開発が行われました。多くの団塊世代の方が転入されることでまちの活力に繋がっていましたが、近年は子世代が市外へ転出され親世代だけで居住される傾向が多く見られます。広い敷地に良好な住宅が立ち並ぶものの、近年では子どもたちの声が減り高齢者率が高くなっている状況です。

これらの山手地域では、良好な住宅環境を維持、保全していくために地域の意向を踏まえて、地区計画により建築物の用途や最低敷地面積、高さの最高限度、かき・さくの構造などのルールを定めています。この地区計画により非常に良好な住宅環境が形成されてきましたが、一方で、親世代だけで居住するには家が大きすぎる、高齢になり鉄道の近くで生活するため売却しようと思っても敷地面積が大きすぎて買い手が見つからない、

などの声を聞くとともに、一部では空き家となっている状況も見受けられます。

地元地域では、地区計画のルールを変更して最低敷地面積を小さくすれば売却しやすい、いや、それでは良好な住宅環境が崩れる、など両方の声があります。しかし、まずは現在の環境を維持しながら課題解決できる手法がないものか。移住・定住促進事業はまさにこのような課題解決に役買うものと考えますが、助成額や助成件数には上限があります。助成はあくまで動機付けであって、山手地域の活性化に繋がられる方策を検討しなければなりません。

4. 方策の検討

子世代の方が市外へ転出する理由としては、主に進学や就職に伴うものと考えられますが、交野市はJR片町線と京阪電鉄交野線の鉄道駅が市域に六駅あり、大阪市内への移動は比較的便利であることから、この利便性にプラスの魅力を発信していくことで、交野に永住していただく、または市外へ転出された方に戻っていただくことを期待しています。

プラスの魅力としては、これまでから交野の魅力として評価されてきた地域資源（水がおいしい、自然環境が豊か、交通の利便性が良い、良好な住宅環境が

整っている、地域のコミュニティ力がある、教育環境が良いなど）を生かした取組みを進めることが魅力アップに繋がると考え、「市長戦略」に重点施策として多くの項目を掲げています。

「移住・定住の促進」はその一つであることから、この施策展開のなかで、特に山手地域が抱える課題の解決策とリンクできないか、という事を模索していきたいと考えています。

まだ実態把握や地域の意向を伺ったものではなく、あくまで担当課で思案しているレベルのものであることを前提としていたのですが、方策の一つとして、山手地域の住宅は敷地面積や建物面積も大きいという点を生かして、転出された子世代が親世代の自宅を二世帯住宅へリフォームして三世帯同居していただく。あるいは、山手地域で親世代だけで生活するには大きすぎる、といった意向のある住居について、所有者が生活利便性の高い鉄道駅の近くに転居することで空き家になる物件を、親世代が住む近隣で中古物件として購入したり、借り受ける。これらを上手く情報集約し発信する手法として、各自自治体においては空き家活用のための空き家バンクなどに取組まれている例もありますので、この事例も参考にさせていただきながら、「移住・定住の促進」と「山手地域の住居の流通・循環」を連動させた仕掛けや仕組みづくりを、不動産業界や住宅販売業界、また建築士会の方々のお知恵をお借りし、また連携させていただくことにより実現できればと考えています。

5. 景観まちづくりの取組み

次に、本市の景観まちづくりの取組みをご紹介しますのでいただきます。

本市の景観に関する取組みは、市域の山なみや落ち着いたまちなみを貴重な財産として継承するとともに整備、創出していくため、市民の自発的なまちづくり活動を支援し、市民主体のまちづくりを進めるため、平成一二年四月に「景観まちづくり条例」を施行するとともに、「景観まちづくり基本計画」を策定し、景観まちづくり団体の認定や景観まちづくり協定の締結などを推進するとともに、大規模建築物の誘導基準を設け運用してきました。

これらは市独自の取組みでありましたが、平成一六年に「景観法」が制定され、景観に関する法的枠組みができたことから、これまでの取組みを法に基づく実効性のあるものとして運用するとともに、市独自の景観施策を進めることができるよう、平成二三年五月に景観法に基づく「景観行政団体」に移行したところです。

景観行政団体になると、行為の制限に関する事項など良好な景観の形成に関する計画を定めることができることから、市がこれまで取組んできた大規模建築物の誘導など、条例や基本計画で運用してきた内容を踏まえ、従来の基本計画と景観法に規定する景観計画を一体のものとした、「交野市景観まちづくり計画」を策定しました。

策定にあたっては、景観アドバイザー、建築や広告の事業者団体、市内で景観等の活動をされている地域活動団体、また、公募による市民委員により構成する「景

観まちづくり会議」を立ち上げご意見をいただき、パブリックコメントも実施しました。この景観計画策定段階で市民の方々から交野市の自然、緑、おいしい水、星の美しさなどを大切にしてほしいといった意見が多数寄せられ、改めて交野の魅力を感じることができました。

景観計画では市全域を景観計画区域とし、代表的な取組みとしては、大規模建築物等は山なみや周辺景観に大きな影響を及ぼすことから、対象規模を定め、建築物の配置、規模、意匠、材質、色彩について周辺地域の状況や特性に配慮し、周辺景観との調和の取れたものとなるよう、大規模建築物等の新築等を届出対象行為とするとともに、特に大規模なものについては市のデザイン委員会において検討することとしています。

今後は、屋外広告物について適切な誘導を図るため、大阪府の基準をベースに市の特性に合った独自の規制・誘導のルールづくりを検討していきたいと考えています。

6. さいごに

今回ご紹介させていただいた内容は、目新しい、先進的な取組みでもなければまだ具体的な取組みに至っていないものでも大変恐縮しています。

交野市では現在、大規模なプロジェクトとして、第二京阪道路沿道の整備効果を活かした星田駅北エリアのまちづくり、地権者の方々と一致団結して取組んでおり、新たなまちの創出、交野のリーディングゾーンになるものと期待をしております。

人口減少社会の中で、交野の規模や特性に見合ったまちづくりを進めていくために、各関係団体の皆さんや関係自治体の皆さんのご指導も賜りながら、交野の魅力を一層引き出し発信できるよう、まちづくりに取組んでいきたいと考えています。



交野市産業PRキャラクター「おりひめちゃん」と交野市星のまち観光協会観光キャラクター「星のあまん」

近田 邦彦（ちかたくにひこ）

交野市都市整備部都市計画課課長

一九六九年 大阪府生まれ
一九九二年 立命館大学経営学部卒 交野市入庁
二〇一二年 四月から現職



理事会報告

文責 本会事務局

日時 一月十七日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三名 監事二名 名誉会長一名

(1) 会計報告について

一月の当期経常増減額は、収入一〇、二五六、九五〇円、支出一〇、二七、四八九円、差引三九、四六四円であり、本年度累計の収支差引は、二六、〇六五、九四七円を報告して承認されました。本年度の収支決算は、収入一六八、一七三、一八七円、支出二五九、六八〇、一〇六円、差引八、四九三、〇八一円の黒字となる見込です。黒字の要因は、行政支援事業や耐震関係事業、新設の省エネ講習とインスペクション講座の増収、定期講習の受講者の増加等が挙げられます。

一方、監理技術者講習は参加者が各回とも九〇名の定員に対して三〇名以下と低迷していることを報告しました。

(2) 次期の理事・監事候補者について
次期の役員候補者は、選考委員会から推薦された理事一九名、監事一名の候補者について、五月の定時総会に諮ることを承認しました。なお選考委員会は一月二七日に開催され、会長及び委員会から推薦を受けた三名の正会員を対象に、地域貢献活動及び研修事業の強化に尽力いただくことを重視し理事会に推薦する次期役員候補者を選考しました。

(3) 二級・木造建築士登録規程の申請書等の様式について

別記する様式の改定を承認しました。

(4) アメリカ建材ミッションについて
米国ワシントン州政府商務局住宅・建材プログラム日本事務所から、米国の木材等輸出に関係したセッション協力依頼がありました。本会より、発表者一名、フリートーク参加者一五名程度を派遣することを承認しました。

建築相談〈建築相談室から〉

建築士の業務に関する電話相談

文 橋本頼幸

今回は建築相談室に電話がかかってきた相談を二件ご紹介します。

建築士以外の設計行為？

電話口で、開口一番「避難安全検証法などを建築士以外の者が行うことはできるのでしょいか？」という相談がありました。一般人ではないし、建築士でもなさそうな口ぶり。

こういった質問の仕方の場合、自分の求めている答えを誘導しようとすることがおおく、その手にのらないように言葉をつなぎながら、どんな回答を求めているのかを推測しながら回答を探します。

建築士の報酬と事務所登録

同じ日に「建築士です。施工図作成して報酬もらう場合は建築士事務所登録が必要でしょうか？」と話し始めました。相談者は建築士の方ですが、どこに勤めているかは言わず、おそらく施工図作成は個人で受けた仕事なのでしょう。その施工図作成の報酬について、発注者に税務調査が入った際、建築士に対する報酬なので源泉徴収する必要があるのではないか、という指摘があったそうです。事務所登録をしないことが建築士法に違反しているのか否かについて不安になり、今回の相談に至ったようです。

建築士の独占業務

建築士法第三条に、「一級建築士でなければできない設計又は工事監理」について記載があります。同様に同法第三条の二、第三条の三に二級建築士・木造建築士についての記載があります。同法では、設計や工事監理については建築士だけに許された業務(独占業務)になっています。最初の相談は、この設計業務に当たる

のか、という相談です。様々な設計業務の中の一部を建築士でない人が担当したとしても、最終的に統括する人が建築士であり、なおかつ建築士の監修のもと行われたのであれば問題はないと考えられます。構造計算の電算入力や作図などと同様と考えます。つまり、建築士には設計の前提となる「建築技術的な考え方」について明確にし、法適合性を担保することが求められていると考えます。もちろん作図から計算まですべて建築士が行うことが望ましいのですが、そうはならないのが現実でしょう。

建築士事務所登録の要件

建築士法第二十三条には「建築士又はこれらの者を使用する者は、他人の求めにに応じ報酬を得て、①設計②工事監理、③建築工事契約に関する事務、④建築工事の指導監督、⑤建築物に関する調査若しくは鑑定又は⑥建築物の建築に関する法令若しくは条例の規定に基づく手続の代理を業として行おうとするときは、建築士事務所を定めて、都道府県知事の登録を受けなければならない(二部抜粋)」と明記されています。後半の相談の施工図作成は、事務所登録の要件に含まれないと考えられます。報酬の源泉徴収義務と事務所登録の要否は無関係です。

建築士の役割

最初の相談は人材派遣会社の方からの相談でした。実際にどのような人を派遣するのかわかりませんでした。たとえば建築設計業務の一部を担当するだけであっても建築の技術や知識は必要で、建築士でないと難しいのではないかと感じました。後半の相談の施工図作成業務は建築士の独占業務ではないですが、技術や知識を持った建築士資格が役立つことは間違いありません。建築士の活躍の場を広げることが、良質な建築の供給の一助になります。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪ミナミのネオンが眩い繁華街のど真ん中に他とは違う輝きを放つビルがある。今回は浪花組本社ビル(現・住友実業ビル)を取り上げる。

浪花組は大正二年(一九一三年)に創業した左官業などを専門とする会社で、多くの名建築に携わってきた。この本社ビルは三代目社長であった中川貢氏が、建築家村野藤吾氏に設計を依頼した。建物の竣工は昭和三十九年(一九六四年)で、その後も中川氏は村野氏を信頼し、浪花組東京支店(一九六六年―建替)、心斎橋プラザ(一九五六年―二〇〇三年)から数奇屋造りの自邸まで、実に八件もの設計を依頼している。

建物のファザードは複雑な多角形を組み合わせ、それらを連続させる手法を用いた立体的に浮かび上がるその様は見るものを圧倒する。旧新歌舞伎座(一九五八年―二〇一五年)にあった唐破風の連続で構成されたファザードを思い出させる。

事務所ビルでありながら、これだけ手の込んだ意匠を纏った建築を、新たにすることは難しい。まちなかにある宝石のような建物をこれからも見続けていたい。

建築人 3 2016

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
編集人代表	米井 寛	飯田英二	
編集人	荒木公樹	黒川祐樹	
	河合哲夫	中江 哲	
	筑波幸一郎	橋本頼幸	
	中間伸和		
	牧野隆義		
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		



水栓もインテリアのひとつ

水まわりにも注目が集まる対面式キッチンやオープンキッチン。
水栓も住空間を彩る重要なアイテムです。

上質な仕上げと美しいフォルム。使いやすさにこだわった設計。
SANEI のデザイン水栓は、機能とデザインを両立させた
インテリア性の高い水栓です。





4 ワールド・トレード・センター 榎総合計画事務所 榎文彦

2003年6月、ニューヨークSOMパートナーであるディヴィッド・チャイルド氏から、ダニエル・リベスキンド氏のマスタープランの中の第4棟(4WTC)の設計を引き受けないかという依頼があった。このような大規模な高層建築を引き受けられるか、所内で充分検討の上、承諾した。以降、2006年、他の建築家、ノーマン・フォスター、リチャード・ロジャース等と共に初期段階の各自の案を発表。2008年のリーマン・ショックによりフォスター、ロジャースの案は一時ストップしたが、SOMの1WTC、我々の4WTCは建設が進行し、4WTCのオフィス機能部分が2014年11月にオープニングを迎えた。

敷地の形状に即した平行四辺形と上部梯形の組合せによる約300mに近い超高層建築である。低層部3層は四方の道路面に即した適切な施設が配置されるが、上層部のオフィス部分は徹底した「ガラスの彫刻」を目指した。その結果、4WTCは季節、天候、時間によってその表情を刻々と変化させながら、周辺のスカイラインの中で鋭いアイデンティティを確立している。そして多くの建築家、市民、批評家から賛同の意を受けている。その存在は時に姿を消し、虚しい相を呈することがある。それは28年という短い生涯を終えた旧WTCへのオマージュとして理解することも出来るだろう。

撮影：Tectonic(表紙)、ARTCOURT Gallery(上)、榎総合計画事務所(中/下)

■プロフィール

榎文彦 (まきふみひこ)
1928年 東京都生まれ
1952年 東京大学工学部建築学科卒業
1953年 クラブルック美術学院修士課程修了
1954年 ハーバード大学修士課程修了
ワシントン大学・ハーバード大学
准教授を歴任
1965年 榎総合計画事務所設立
1979～89年 東京大学工学部教授

■建物データ

設計：榎総合計画事務所
協力：AAI Architects(Tower)
Beyer Blinder Belle Architects & Planners(Retail)
施工：Tishman Construction(Tower)
Tishman/Turner A Joint Venture(Retail)
敷地面積：4,998㎡
建築面積：4,877㎡
延床面積：213,700㎡
階数：72階
竣工：2014年6月

